インタラクティブフラット　パネル

ユーザーマニュアル

法的情報

この文書について

- 本ドキュメントには、製品の使用および管理に関する説明が含まれています。以下に掲載されている写真、図表、画像、およびその他すべての情報は、説明および解説のみを目的としています。
- 本ドキュメントに記載されている情報は、ファームウェアの更新その他の理由により、予告なく変更される場合があります。最新バージョンのドキュメントは、Hikvision ウェブサイト (https://www.hikvision.com) でご確認ください。別段の合意がない限り、杭州海康威視数字技術有限公司またはその関連会社（以下「Hikvision」）は、明示的または黙示的を問わず、いかなる保証も行いません。
- 本製品をサポートする訓練を受けた専門家の指導と支援のもとで、この文書をご利用ください。

本製品について

- 本製品は、購入された国または地域でのみアフターサービスサポートを受けることができます。
- お選びいただいた製品が映像製品の場合は、以下のQRコードをスキャンして「映像製品の使用に関する取り組み」を入手し、よくお読みください。

知的財産権に関する承諾

- 本ドキュメントに記載された製品に具現化された技術に関連する著作権および／または特許はHikvisionが所有しており、これには第三者から取得したライセンスが含まれる場合があります。
- 本文書のテキスト、画像、グラフィック等を含むいかなる部分もHikvisionに帰属します。書面による許可なく、本文書の全部または一部をいかなる手段によっても抜粋、複製、翻訳、改変することはできません。
- HIKVISION およびその他の Hikvision の商標およびロゴは、各管轄区域において Hikvision の財産です。
- 記載されているその他の商標およびロゴは、それぞれの所有者の財産です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、

  HDMI トレードドレスおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

法的免責事項

- 適用される法律で認められる最大限の範囲において、本書および記載されている製品（そのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアを含む）は、「現状有姿のまま」かつ「すべての欠陥およびエラーを含むまま」提供されます。 HIKVISION は、商品性、満足のいく品質、特定目的への適合性を含むがこれらに限定されない、明示的または黙示的な保証を行いません。 本製品の使用はお客様の自己責任で行ってください。いかなる場合においても、HIKVISIONは、特別損害、結果的損害、付随的損害、間接損害（事業利益の損失、事業中断、データの損失、 システムの破損、または文書の損失を含むがこれらに限定されない損害について、契約違反、不法行為（過失を含む）、製造物責任、その他いかなる法的根拠に基づくものであっても、本製品の使用に関連して、HIKVISIONがそのような損害の可能性について通知されていた場合であっても、一切の責任を負いません。

または損失について、一切の責任を負いません。

- お客様は、インターネットの性質上、固有のセキュリティリスクが存在することを認識し、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、 ウイルス感染、その他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシー漏洩、その他の損害について一切の責任を負わないことを認めるものとします。ただし、必要に応じてHIKVISIONは適時に技術サポートを提供します。
- お客様は、本製品を適用されるすべての法令に準拠して使用することに同意し、お客様の使用が適用される法令に準拠していることを確認する責任はお客様のみにあります。 特に、お客様は、パブリシティ権、知的財産権、データ保護およびその他のプライバシー権を含むがこれらに限定されない、第三者の権利を侵害しない方法で本製品を使用することについて責任を負います。 お客様は、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、 核爆発物または安全でない核燃料サイクルに関連する文脈における活動、または人権侵害を支援する活動を含むがこれらに限定されない。
- 本文書と適用される法律との間に矛盾が生じた場合は、後者が優先する。

© 杭州海康威視数字技術有限公司。無断複写・転載を禁じます。

はじめに

適用モデル

本マニュアルは、インタラクティブフラットパネルに適用されます。

記号の定義

この文書で使用される記号は以下のように定義されます。

記号	説明
Note	本文の重要な点を強調または補足する追加情報を提供します。
Caution	回避しなければ、機器の損傷、データの損失、性能の低下、または予期せぬ結果をもたらす可能性のある、潜在的に危険な状況を示します。
Danger	回避しなければ死亡または重傷につながる高いリスクの危険を示します。

本マニュアルで取り扱うすべての製品は、製品セキュリティレッドライン V4 に基づいて開発されています。

目次

第 1 章 はじめに 1

第2章 操作および保守上の注意事項 2

2.1 電源ケーブルの使用 3

2.2 清掃とメンテナンス 3

第3章 接続と設置 4

3.1 設置上の注意 4

3.2 外観とインターフェース 4

3.2.1 フロントパネルとインターフェース 4

3.2.2 パーソナルコンピュータ（PC）への接続 7

3.3 内部コンピュータの設置 8

3.4 取り付け 9

第4章 起動とシャットダウン 12

4.1 デバイスの起動 12

4.1.1 コンピューターボックスなしでインストール 12

4.1.2 コンピューターボックス付きでインストール 12

4.2 エコモード 12

4.3 シャットダウン 12

第5章 メニュー操作 14

5.1 基本操作 14

5.2 システムバー 15

5.3 入力ソース 16

5.4 ネットワーク 16

5.5 コントロールメニュー 16

5.5.1 注釈 18

5.5.2 スクリーンショット 20

5.5.3 投票機 20

5.5.4 ランダム選択 22

5.6 カメラ機能 24

5.6.1 カメラ 24

5.6.2 ビデオ 24

5.6.3 設定 25

第6章 システム設定 27

6.1 ネットワーク設定 27

6.1.1 有線ネットワーク設定 27

6.1.2 ワイヤレスネットワーク設定 28

6.1.3 WLAN ホットスポット設定 29

6.2 表示設定 30

6.3 オーディオ設定 32

6.4 言語と入力設定 32

6.5 日付と時刻の設定 33

6.6 アプリケーション管理 34

6.7 Bluetooth 34

6.8 補助機能 35

6.8.1 サイドバー 35

6.8.2 インテリジェント温度制御 35

6.8.3 スマートリモコン（オプション） 36

6.8.4 フローティングメニュー 36

6.8.5 グローバルジェスチャー 37

6.8.6 インテリジェントライティング 37
6.8.7 物理ボタン設定 37
6.8.8 Windows Ink 38
6.9 詳細設定 39
6.10 アカウント管理 42
6.10.1 マルチアカウントモード 42
6.10.2 モニターモード 45
6.11 デバイス情報 46
6.12 ネガティブスクリーン 46
第7章 インテリジェントアプリケーション 47
7.1 ファイルブラウザ 47
7.1.1 ローカルストレージ 47
7.1.2 クラウドストレージ 49
7.2 ブラウザ 50
7.3 ホワイトボード 50
7.3.1 ツールバーの基本操作 50
7.3.2 その他のツール 52
7.3.3 ホワイトボードの管理 59
7.3.4 ホワイトボードを保存 59
7.3.5 ホワイトボードを共有 60
7.3.6 その他の機能 60
7.4 WonderCastServer 63
7.5 WonderSeminar 63
7.5.1 放送と通話画面 65
7.5.2 グループ比較 67
7.5.3 権限制御 68
7.5.4 その他の操作 68
7.6 WonderOS AI 69
7.6.1 WonderOmi 69
7.6.2 AI Identify 70
7.6.3 AI Notes 70
7.6.4 アカウントAIのメリット 72
7.6.5 概要 72
7.7 システムプリインストールアプリケーション 72
第8章 付録A よくある質問 74

第1章 はじめに

インタラクティブフラットパネル（以下「本装置」という）は、コンピューター、プロジェクター、インタラクティブホワイトボード、スピーカー、広告機などの機能を統合しています。本装置は、4Kディスプレイ、赤外線タッチ、人間と機械の相互作用、マルチメディア情報処理、ネットワーク伝送などの複数の技術によって強化されており、書き込み、注釈、マルチスクリーン共有、遠隔ビデオ通話（オプション）などの様々な機能を提供します。

本装置は主に、オフィス、会議室、マルチメディア教室、展示ホールなどの場所において、遠隔ビデオインタラクティブ、研修・指導、医療相談などのイベントに使用されます。

主な特徴

- 入力信号の解像度は最大3840×2160のUltra HDディスプレイに対応。
- 20pxの極細筆記と、1mmの精度で認識可能な2mm径。
- USB 3.0 に対応。
- 内蔵Wi-Fiにより、ケーブル接続なしで画面ミラーリングを実現。
- 内蔵のインタラクティブホワイトボードシステムにより、QRコードによる注釈や共有が可能。
- ループアウト表示が可能。
- 各種オーディオ・ビデオインターフェースによるデバイス接続に対応。
- 内蔵ネットワークスイッチモジュールにより、ネットワークスイッチが不要。
- 内蔵Androidシステムにより各種アプリケーションを提供。
- OPS/OPS-Cデバイスに対応し、内蔵システム間のスムーズな切り替えを実現。
- アルミニウムプロファイルフレームによる超薄型デザイン。
- モニターを健康的に使用するための推奨事項（目の疲れを防ぐため）：長時間画面を凝視せず、適宜休憩を取ることをお勧めします。

  — 画面を1時間以上見つめた後は、遠くの景色を見ることで目を休めることができます；

  — 画面を1時間以上見つめた後は、眼球運動を行うことで目を休めることができます。

第2章 操作とメンテナンス

注意事項

本装置の液晶パネルは高精度技術で製造されています。ただし、画面上に常に点灯している、あるいは全く点灯しない微小なスポットが観察される場合や、側面から見た際に色や輝度にムラが生じる場合があります。しかし、これらの現象は液晶ディスプレイに共通する特性であり、故障ではなく、装置の性能に影響を与えることはありません。
画面上に常に点灯している、あるいは全く点灯していない小さな点が見られる場合があります。また、横から見た場合、色や明るさにムラが生じることがあります。ただし、これらの現象は液晶ディスプレイに共通する特性であり、故障ではなく、デバイスの性能に影響を与えることはありません。

すべての青色光が有害というわけではありません。真に有害なのは波長415nm～455nmの青色光であり、逆に480nm～500nmの青色光は、何らかの形で人体の生体リズムを調節するのに役立つため、人体に有益です。 Hikvisionの低ブルーライト技術はこの事実に基づいています。LEDの主ブルーピークを調整することで、この波長帯のエネルギーを大幅に低減し、ハードウェアが発する有害なブルーライトの割合を効果的に削減します。同時に、パネルカラーフィルムの設計を調整することで、Hikvisionは独自にNiceBlueモジュールを開発しました。これにより、カラーマネジメントにおいて究極の完璧な画質を保証しつつ、視覚保護と表示効果の両面で優れた性能を実現しています。

- 当社では、本装置の操作中に第三者の原因による不具合、その他の故障や損傷が生じた場合、一切の責任を負いかねます。
- 火災や損傷の危険を避けるため、ほこり、高湿度、油や蒸気が接触する環境での使用は避けてください。
- 直射日光や強い光源の近くには設置しないでください。
- 強い放射線を発生する他の機器の近くに設置しないでください。
- 雨や湿気の多い環境に装置をさらさないでください。
- 本機を不安定または安全でない場所に置かないでください。強い衝撃、振動、揺れを避けてください。
- 火災の危険を避けるため、暖房器具の近くや高温の場所での使用は避けてください。
- 低温環境から高温環境へ移動した後は、環境から高温環境へ移動させた後、
  すぐに電源を入れないでください。結露が蒸発するまでお待ちください。
- 本機内部に異物を挿入しないでください。
- 本機の上に重い物を載せないでください。
- 本製品および付属品は予告なく変更される場合があります。
- ディスプレイの脆弱な素材は落下や衝撃に弱いため、取り扱いには十分ご注意ください。
- デバッグおよび操作中の不適切な操作は、本機の損傷の原因となる場合があります。
- 硬い物で本機を引っ掻いたり叩いたりすることは厳禁です。
  動作中の頻繁な電源のオン/オフは、損傷や故障のリスクを避けるため避けてください。

- 煙、異臭、または騒音が機器から発生した場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。その後、サービスセンターまでご連絡ください。

2.1 電源コードの使用について

- 電源ケーブルが損傷または故障している場合は、サービスセンターにご連絡ください。電源が適切に接地され、筐体の銘板に記載された要件に適合していることを確認してください。
- 本機を雨や湿気の多い環境にさらさないでください。雷雨の際は電源プラグとアンテナを外してください。
- 長期間使用しない場合、本機の電源を切り、電源を遮断してください。
- 電源を切った後、放電が短時間続く場合があります。電源を切ってから2分間待ってから操作してください。
- 本製品に付属の純正電源ケーブルのみをご使用ください。同仕様の電源ケーブルをご購入の際は、正規販売店にお問い合わせください。
- 電源が確実に接地されていることを確認してください。
- 電源プラグとコンセントにほこりや金属片が付着しないようにしてください。
- ケーブルをいかなる形でも改造しないでください。
- ケーブルの上に重い物を置かないでください。
- ケーブルを熱源から遠ざけてください。
- 電源プラグをケーブルを引っ張って抜かないでください。
- 電源ケーブルを物理的または機械的な損傷から遠ざけてください。
- 本ケーブルはインタラクティブディスプレイ専用です。他の機器には使用しないでください。

2.2 清掃とメンテナンス

- 背面カバーの穴は放熱用です。背面カバーに液体を注いだり噴射したり、濡れた布で清掃しないでください。
- 清掃前に電源プラグを抜いてください。
- 画面に高輝度の画像を長時間表示しないでください。
- 乾いた柔らかい埃の付いていない布で本機を拭いてください。
- 内部清掃についてはサービスセンターにお問い合わせください。
- 適切なメンテナンスにより、初期段階の故障を回避できます。
- 定期的にデバイスを清掃し、新品同様の状態を保ってください。
- 水、スプレー式クリーナー、工業用化学薬品で本機を清掃しないでください。異物が本機内部に入らないようにしてください。
- 装置のメンテナンスは、資格を持つサービス担当者にご依頼ください。装置が損傷した場合は、当社までご連絡ください。無許可での修理は行わないでください。

第3章 接続と設置

3.1 設置上の注意事項

- 最適な性能を発揮させるため、設置前に装置の画面と背面を清掃してください。
- 安全のため、メーカー提供の壁掛け金具または台座のみを使用してください。
- 壁掛け設置は専門スタッフにご依頼ください。
- 設置前に付属品を確認してください。不足品がある場合は販売店に連絡してください。
- デバイスを過度に締め付けないでください。そうしないと画面が歪む可能性があります。
- 装置は耐荷重壁に取り付けてください。
- 安定した場所に設置するか、壁にしっかりと固定してください。
- 電源接続を容易にするため、利用可能なAC電源コンセントの近くに設置してください。信号干渉を防ぐため、他の機器と同一の接地ケーブルを使用してください。
- 機械的な振動源の近くに設置しないでください。
- 虫が容易に侵入できる環境に設置しないでください。
- 結露を防ぐため、本機をエアコンに直接向けないでください。
- 電波干渉を避けるため、強い電磁界の中に装置を置かないでください。

3.2 外観とインターフェース

3.2.1 Front Panel and Interfaces

インタラクティブフラットパネルのインターフェースは以下の通りです。

Note

- デバイスのインターフェースは機種によって異なります。実際の状況をご確認ください。
- 以下の説明は画面を正面から見た方向からのものです。

カメラ付き

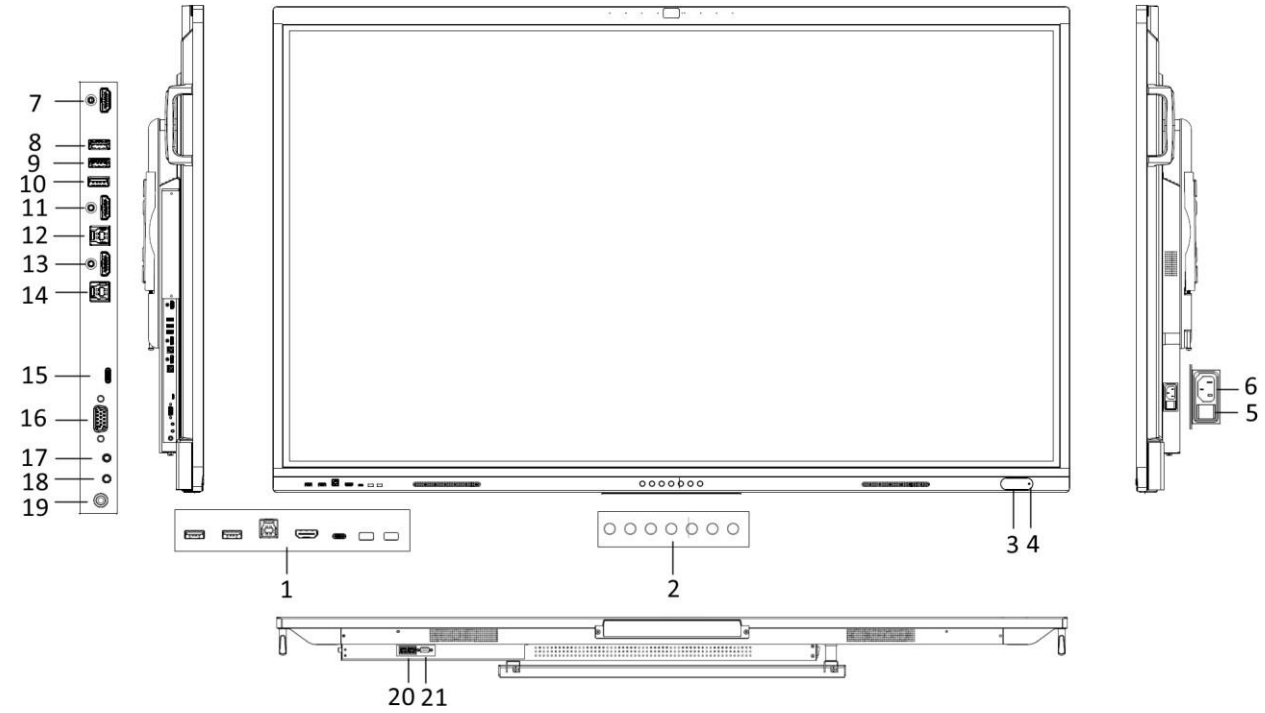


Figure 3-1 前面パネルとインターフェース（カメラ付き）

カメラなし

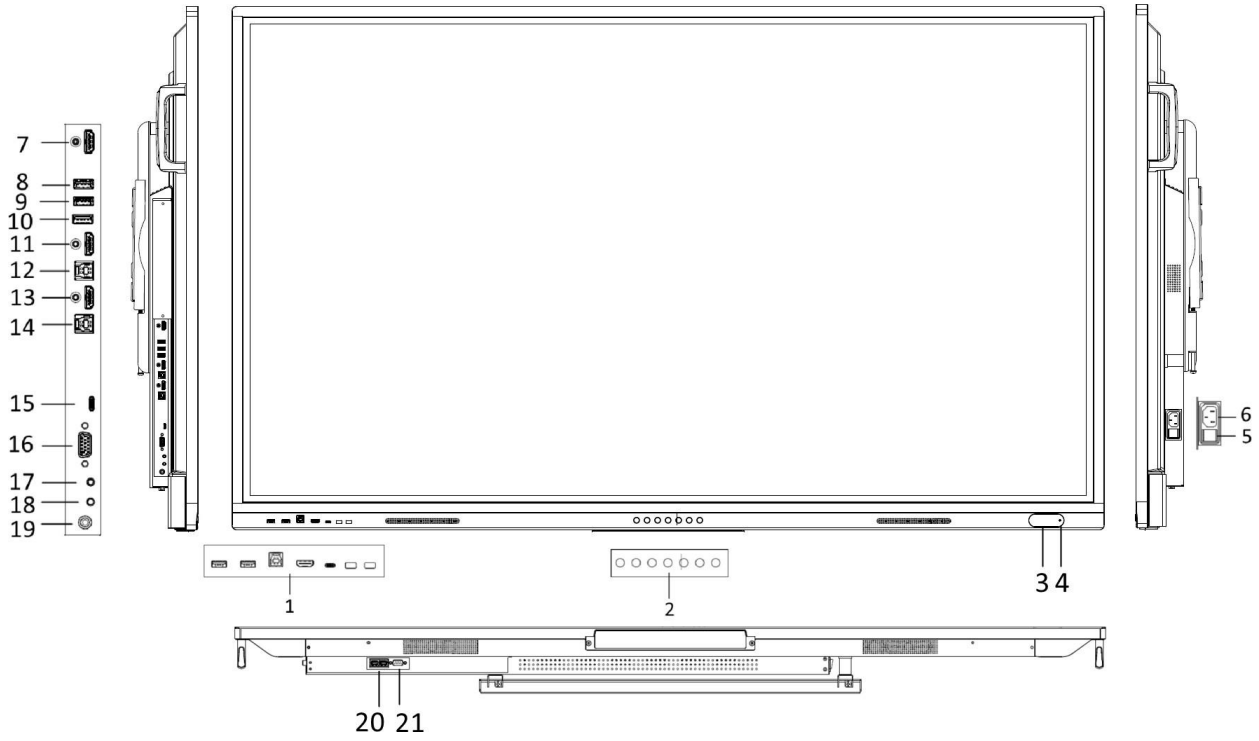


Figure 3-2 前面パネルとインターフェース（カメラなし）

Table 3-1 インターフェースの説明

No.	説明	No.	説明
1 （左から右へ）	USB 3.0 USB 3.0 タッチ対応 USB 3.0 HDMI Type-C 光センサー IR	2 (左から右へ)	電源キー 音量 – 音量 + Androidホストメニュー戻る コントロールメニュー 物理ボタン（「***6.8.7 物理ボタンの設定***」を参照）
3	NFC	4	温度・湿度センサー
5	電源スイッチ	6	電源 100～240 VAC
7	HDMI出力	8/9	多機能USBインターフェース
10	USBインターフェース	11	HDMI IN 1
12	タッチUSB	13	HDMI IN 2
14	タッチUSB 2	15	Type-C
16	VGA入力	17	ライン入力（オーディオ入力インターフェース）
18	ライン出力（オーディオ出力インターフェース）	19	SPDIF（デジタルオーディオ送信）
20	LANポート × 2	21	シリアルポート

3.2.2 パーソナルコンピュータ（PC）への接続

PCと本装置の接続は下記の通りです。

Caution

設置または分解の前に、必ず装置の電源を切ってください。

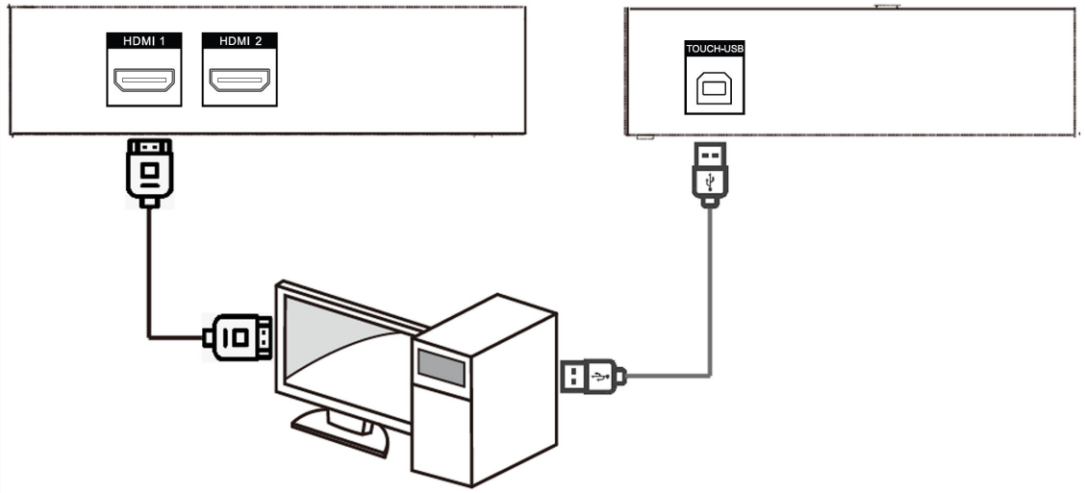


Figure 3-3 PC への接続

Note

- タッチ操作で外部PCを操作する場合、またはUSBデバイスに接続する場合は、タッチUSBインターフェースが必要です。
- 高品質な信号ケーブルを使用し、HDMI信号伝送品質を高めるため、長さは10メートル未満にしてください。

3.3 内部コンピューター設置

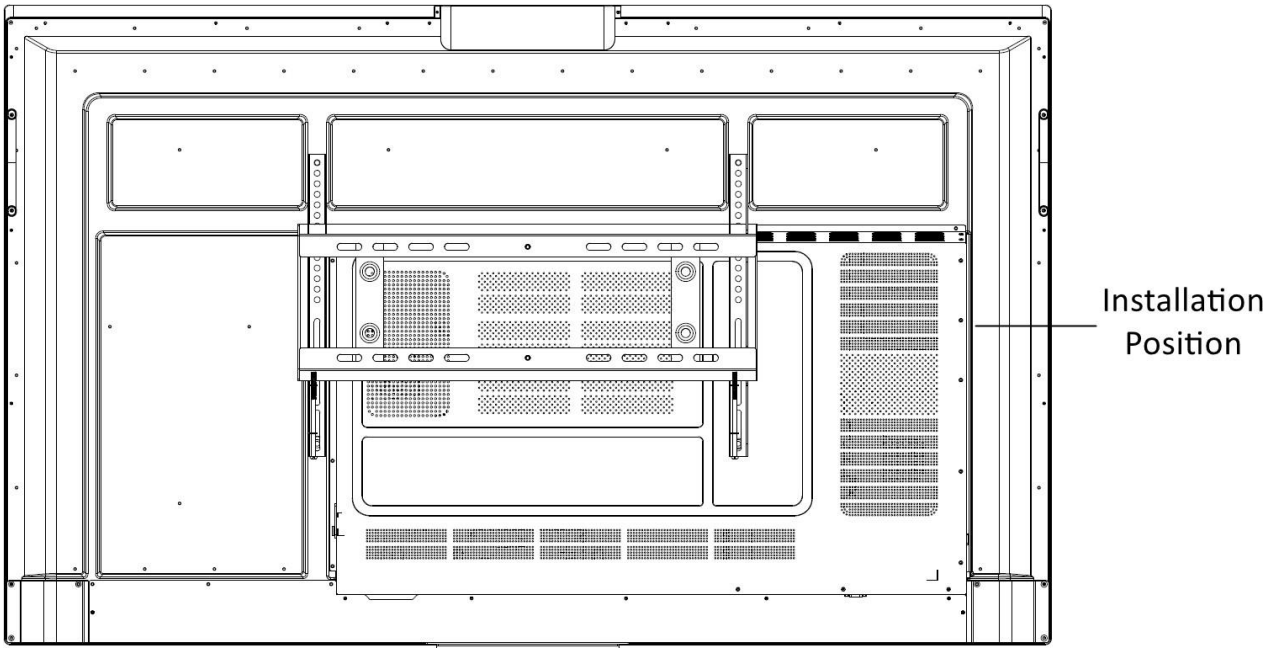


Figure 3-4 内部コンピューター設置

Note

上記の画像（カメラ付きデバイス）は一例です。実際の状況をご参照ください。

コンピューターボックスは装置の側面スロットに設置します。設置時は、図のようにボックスの通気孔が背面パネルと同じ方向を向くようにしてください。ネジを締めてボックスを固定します。

Danger

- コンピューターはオプションアクセサリーです。
- 装置の損傷を防ぐため、コンピュータボックスの取り外しは装置の電源を切った後に行ってください。

3.4 取付

本装置は、下図のように壁掛け用マウントまたはモバイル用マウントで設置できます。

Note

壁掛け用と可動式取り付け用の付属品は異なります。混同しないでください。

壁掛け

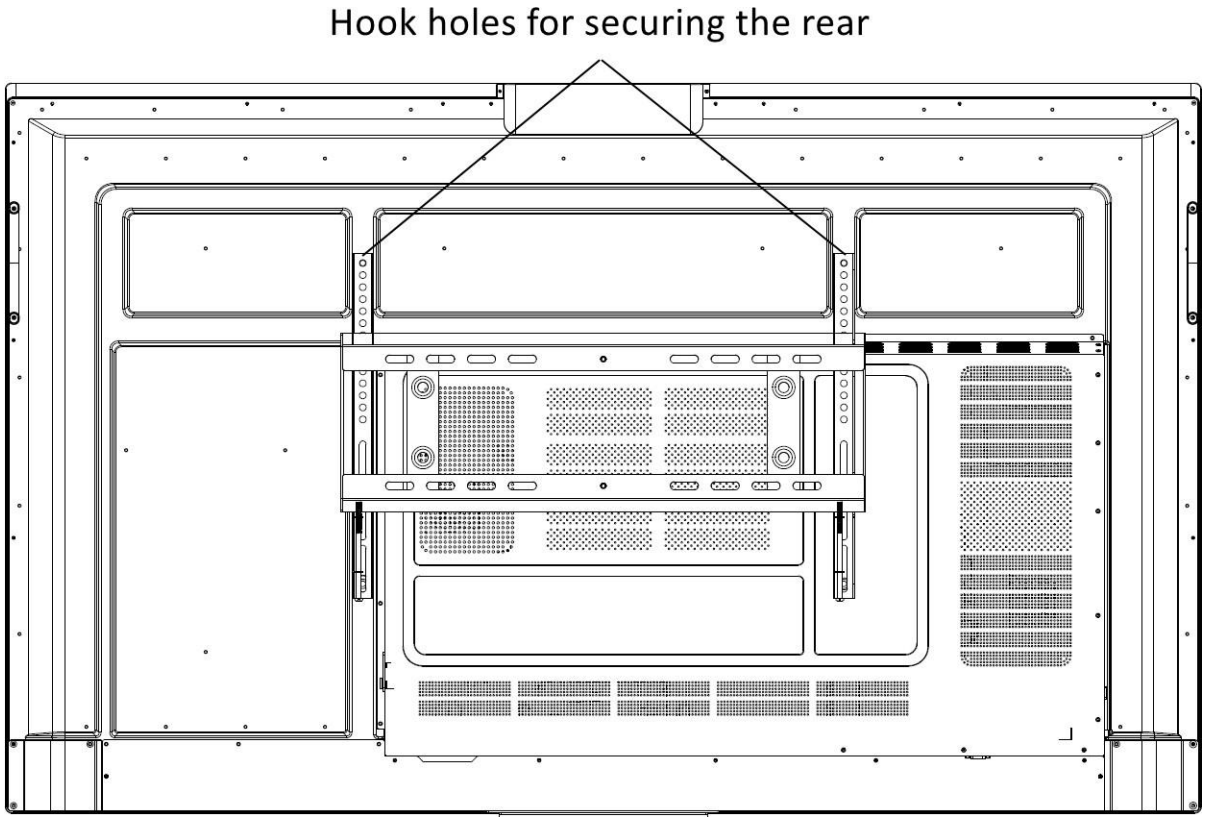


Figure 3-5 壁掛け設置 背面図

Note

上記の画像（カメラ付きデバイス）は一例です。実際の状況をご確認ください。

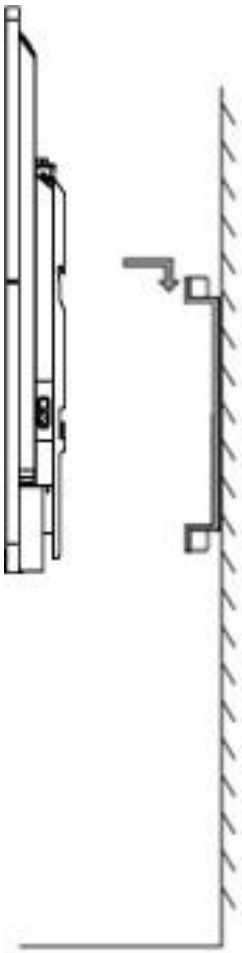


Figure 3-6 壁掛け設置 側面図

Note

壁掛けは水平方向に可動します。メンテナンスのため、各側面には6cm以上（片側12cm以上）、上下には5mm以上のスペースを確保してください。

第4章 起動とシャットダウン

4.1 デバイスの起動

4.1.1 コンピュータボックスなしで設置

Step 1 電源に接続します。

Step 2 電源スイッチをオンにすると、フロントパネルの電源インジケータが赤色に点灯します。

Step 3 フロントパネルの電源ボタンを押すと、デバイスの起動が開始され、インジケータが青色に点灯します。

4.1.2 コンピュータボックスありで設置

装置の電源を切った状態でボックスを設置し、設置完了後に電源スイッチを入れてください。起動時にはボックスの電源インジケーターが赤色に変わり、ファンが作動します。ビープ音の後、電源インジケーターが緑色に変わり、コンピュータの電源が入ります。
同時に、フロントパネルの電源インジケーターが青色に点灯し、デバイスが起動したことを示します。

4.2 エコモード

エコモードへの移行

前面パネルの電源ボタンを押すと、画面がオフになりエコモードに入ります。

デバイスの起動

デバイスを起動する4つの方法：

- 前面パネルの電源ボタンを押す。
- リモコンの電源オフボタンを押す。
- 画面の任意の場所を2回タッチする。

4.3 シャットダウン

- コンピュータボックスが接続されていない場合、またはコンピュータボックスがシャットダウンされている場合は、直接電源を切ってデバイスをシャットダウンしてください。

- コンピュータボックスが電源投入状態でデバイスがインストールされている場合、**[スタート]**をタップし、シャットダウンを選択するか、コンピューターボックスの電源ボタンを押してシャットダウンします（
）。その後、デバイスの電源を切りシャットダウンします。

Note

デバイスの電源を直接切ると、コンピューターボックスが強制シャットダウンされます。次回デバイスが起動する際、Windowsがエラー回復モードに入り、画面タッチが無効になる可能性があります。この場合、デバイスにマウスとキーボードを接続する必要があります。

- リモコンの電源オフボタンを長押ししてください。

第5章 メニュー操作

Note

ソフトウェアのインターフェースや機能は、デバイスモデルによって異なる場合があります。本マニュアルの図はすべて説明用のものです。

デバイスの電源を入れ、メインページに移動します。ショートカットメニューは画面下部に表示されます。

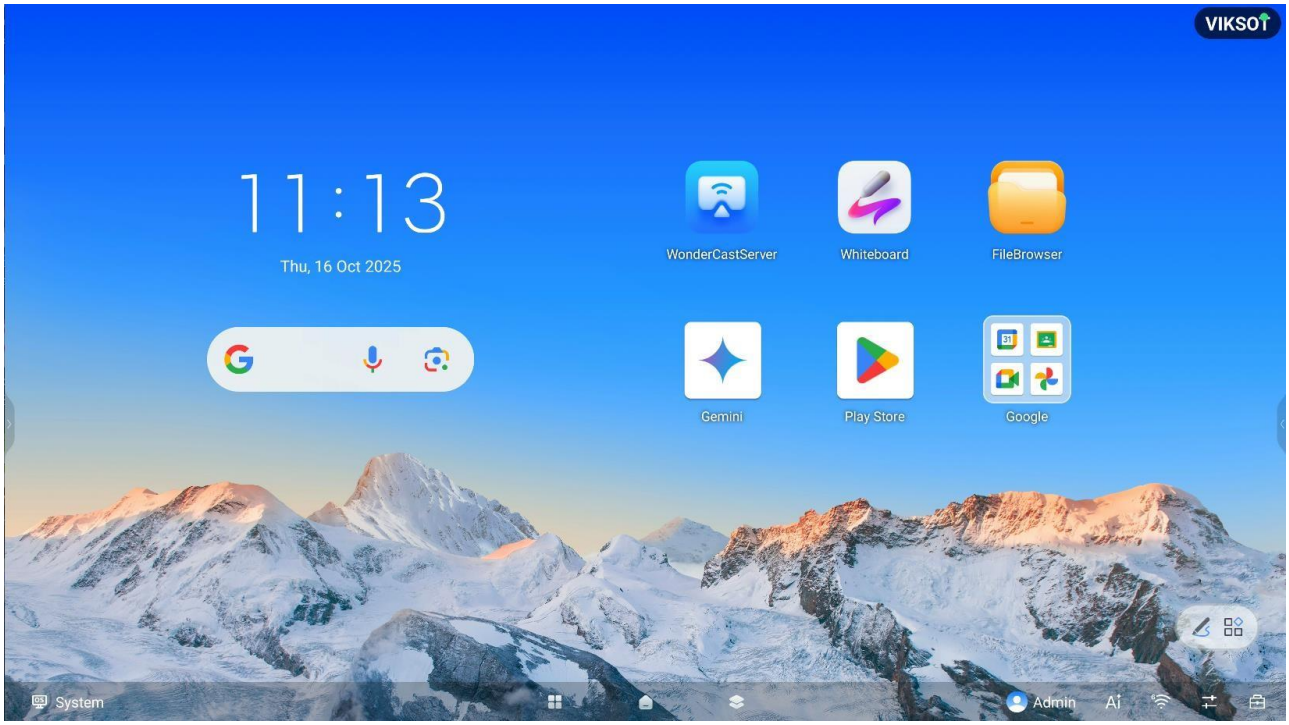


Figure 5-1 メインページ

Note

メインページのアプリケーションアイコンを長押しすると、以下の操作が可能です：

- アプリケーションを画面間で移動します。
- アプリケーションをウィンドウ形式で開く。
- アプリケーションを他のアプリケーションとフォルダにまとめる。

5.1 基本操作

ショートカットアイコンの機能については、以下で説明します。

Figure 5-2 ショートカット

Table 5-1 ショートカットの説明

No	機能	No.	機能
1	下部のメニューバーを非表示にします。	7	アカウントを管理するか、現在のアカウントを終了します。
2	前のページに戻る。	8	AI機能。
3	入力ソースを選択します。	9	ネットワークパラメータとホットスポットを設定します。
4	すべてのアプリケーションを確認します。 長押しして、選択したアプリケーションを分割画面モードまたはウィンドウモードで表示するように移動します。	10	明るさと音量を設定します。
5	メインページに戻ります。	11	コントロールメニューを開く。
6	すべてのアプリまたはプロセスのチェックをオンまたはオフにします。	/	/

Note

下部バーメニューが非表示になった後、 で呼び出せます。

Figure 5-3 ボトムバーを呼び出す

5.2 システムバー

システムバーの領域を長押しすると、システムバー内のアプリのレイアウトを変更できます。

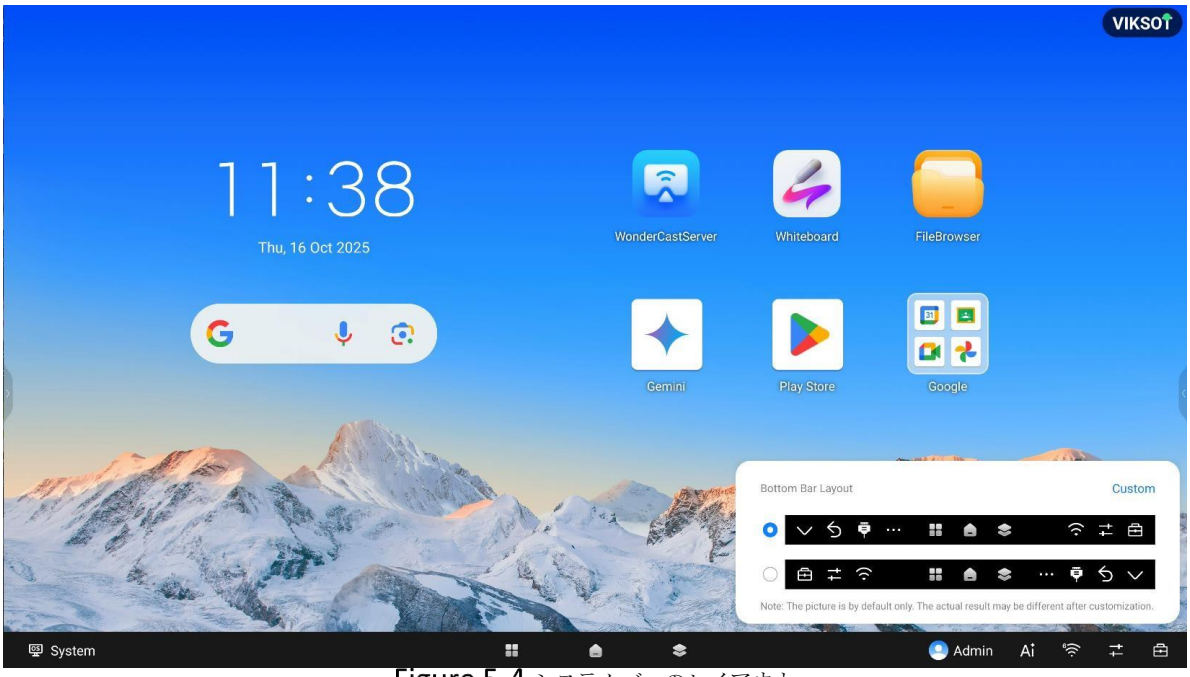


Figure 5-4 システムバーのレイアウト

「**カスタマイズ**」をクリックし、アイコンを移動して位置を調整します。

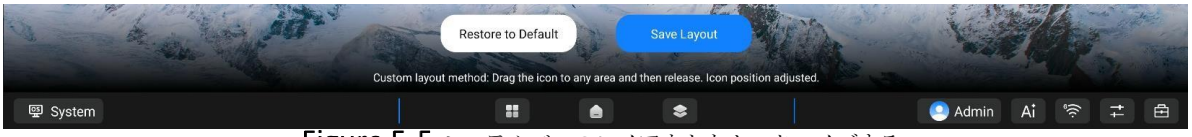


Figure 5-5 システムバーのレイアウトをカスタマイズする

5.3 入力ソース

画面下部の入力ソースアイコンをタップし、デバイスの入力ソースを設定します。**システム**、**PC**、**HDMI 1**、**HDMI 2**、**HDMI 3**、**Type-C 1**、**Type-C 2**、VGAが利用可能です。

5.4 ネットワーク

有線ネットワーク、無線ネットワーク、WLANホットスポットの詳細なパラメータを設定します。詳細は
ネットワーク設定の詳細については、

5.5 コントロールメニュー

下部の「 」をタップしてコントロールメニューを表示し、必要に応じて以下の操作を設定します。

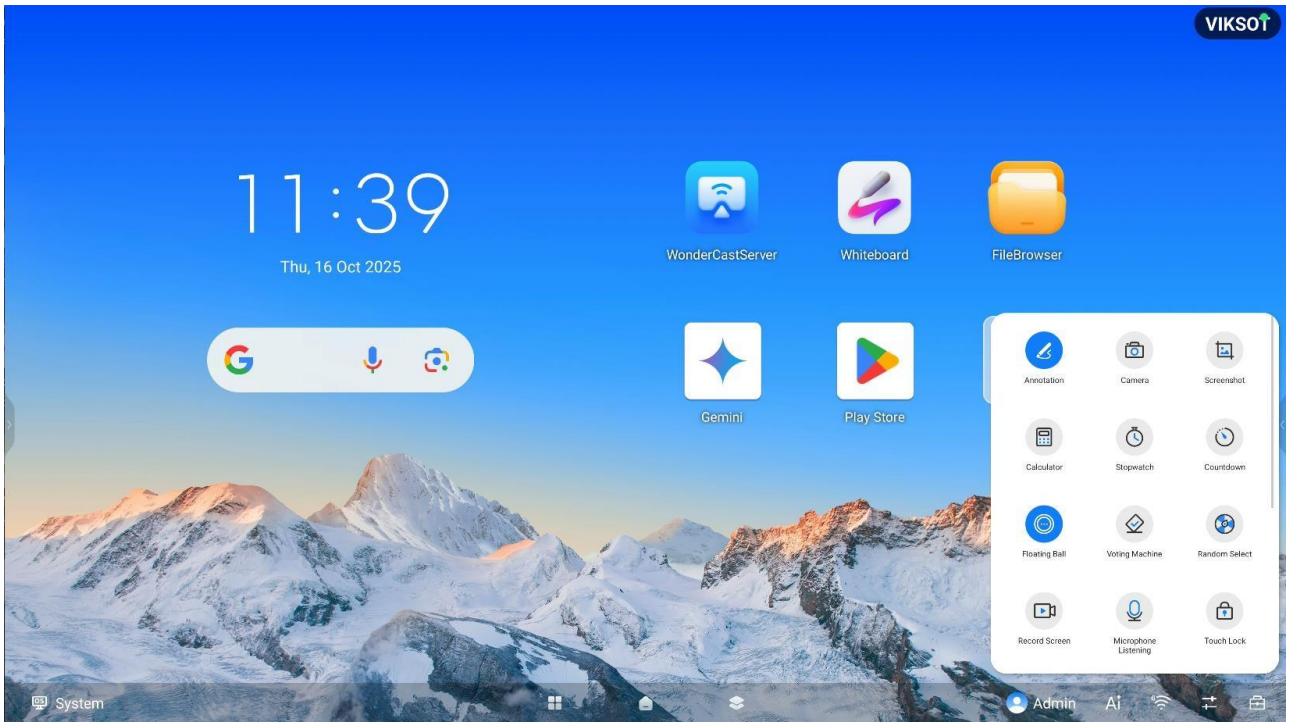


Figure 5-6 コントロールメニュー

Table 5-2 コントロールメニューの説明

ツール	説明
注釈	現在のページに注釈を付ける。
カメラ	デバイスに紐付けられたカメラを開く。
スクリーンショット	現在のページをキャプチャします。
計算機	内蔵電卓を有効にします。
ストップウォッチ	時間を計測します。
カウントダウン	ゼロまで秒数をカウントダウンします。
フローティングボール	フローティングボールを表示または非表示にする。
投票機	投票設定を設定して投票します。
ランダム選択	1つをランダムに選択するオプションの数を設定します。
画面録画	画面を動画として録画します。
マイクの聴取	デバイスの USB インターフェースにオーディオ入力デバイス（マイクなど）を接続すると、デバイスをスピーカーとして使用できます。
タッチロック	タッチロックを有効にすると、ロックされたページではタッチ操作が利用できなくなります。ロックをタップして解除すると、タッチ機能は通常状態に戻ります。

	通常に戻ります。
音声アシスタント	音声アシスタントを有効にすると、「Hey, Omi」と声をかけることでAIアシスタントを起動できます。
ファイル転送	ファイルを転送します。
仮想リモコン	仮想コントローラーを有効にします。ホバー表示のリモコンメニューは、上、下、左、右、確定、戻る、ホームボタンをサポートしており、ホバー表示の仮想リモコンの位置は移動可能です。
画面固定	現在のページを静止表示します。
スポットライト	タップすると開口部を有効にします。明るさとサイズを調整できます。
拡大鏡	拡大鏡をタップします。画面をタッチするとズーム円が表示され、移動して詳細を確認できます。円のサイズは調整可能です。
メトロノーム	タップするとメトロノームが表示されます。スタートボタンをタップすると拍子が聞こえます。音符と拍子は調整可能です。
カレンダー	日付情報を確認してください。
ピアノ	仮想ピアノツール。
画面をオフにする	タップして画面をオフにします。

5.5.1 Annotation

→ **Annotation** に移動して注釈を付けます。画面をタッチして移動することで、ページのどこにでも注釈を追加できます。

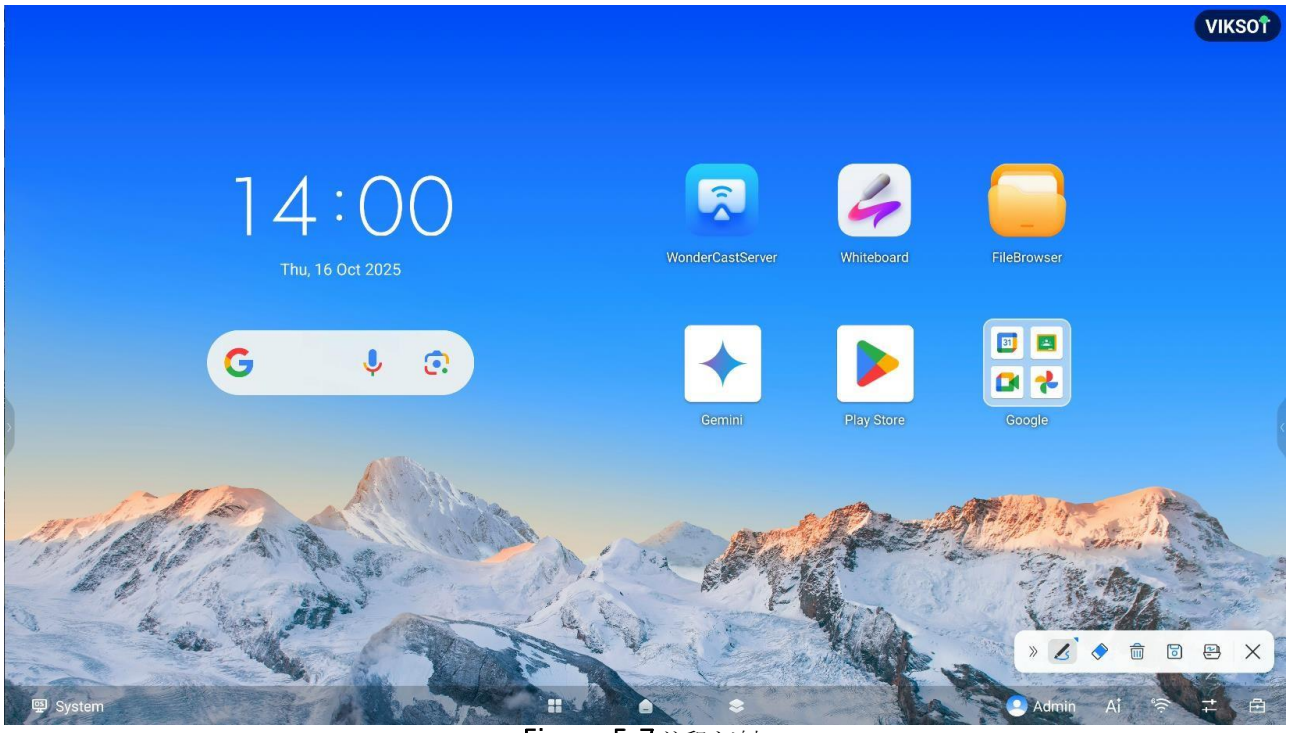


Figure 5-7 注釈を追加

Table 5-3 アイコンの説明

アイコン	説明
	ペン色とサイズを調整して書き込む 斜線を有効にするかどうかを設定します。をタップすると斜線ありのラインになり、をタップすると斜線なしのラインになります。 **指とペンの分離を**有効にします。デバイスはペンと指を自動的に認識します。ペンで書き、指で操作できます。
	タップして必要なメモを消去します。
	タップするとすべてのメモを消去します。
	タップで現在のページを保存します。 フラットパネルがインターネットまたはLANに接続された際に、ノートのQRコードを生成します。インターネットにアクセス可能な端末、またはインタラクティブフラットパネルと同じLAN内にある端末は、QRコードをスキャンしてノートをダウンロードできます。
	注釈を一時保存します。
	タップでノートを終了。
	タップでノートツールバーを折りたたみ/展開します。

5.5.2 Screenshot

→ **Screenshot** に移動すると、現在のページにキャプチャ領域が表示されます。四隅をタップしてドラッグし、領域を調整します。領域の右下隅にスクリーンショットツールバーが表示されます。

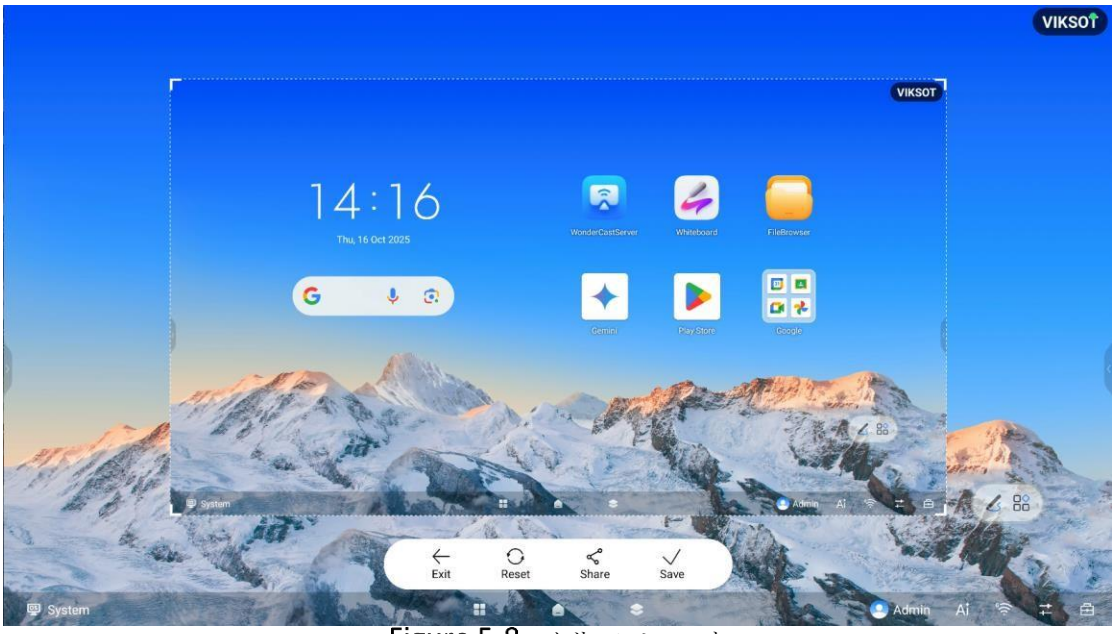


Figure 5-8 スクリーンショット

Table 5-4 スクリーンショットツールバーの説明

アイコン	説明
←	スクリーンショットを終了します。
↻	ページ全体をキャプチャします。
<	スクリーンショットからQRコードを生成し、インターネットにアクセスできる端末、またはインタラクティブフラットパネルと同じLANに接続されている端末でQRコードをスキャンしてスクリーンショットをダウンロードできます。
✓	キャプチャ領域にスクリーンショットを保存してください。

5.5.3 Vote Machine

タブレットが公共ネットワークに接続された後、コントロールメニューの「**投票**」をクリックします。クイック投票または設定オプションに基づく投票を選択できます。

開始前に

デバイスがネットワークに接続されていることを確認してください。

クイック投票

Step 1 **クイック**をクリックして投票オプションの数を選択します。

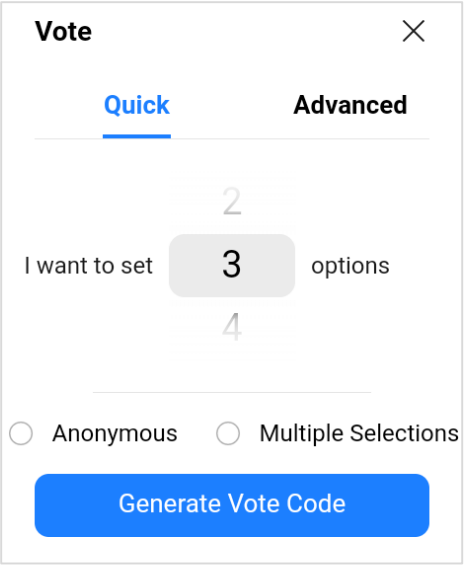


Figure 5-9 クイック投票

Step 2 実際のニーズに応じて、以下のパラメータを設定してください。

- 匿名：名前なしで投票します。
- 複数選択：投票時に複数の選択肢を選択できます。

Step 3 携帯電話でコードをスキャンして投票するには、「**投票コードを生成**」をクリックしてください。

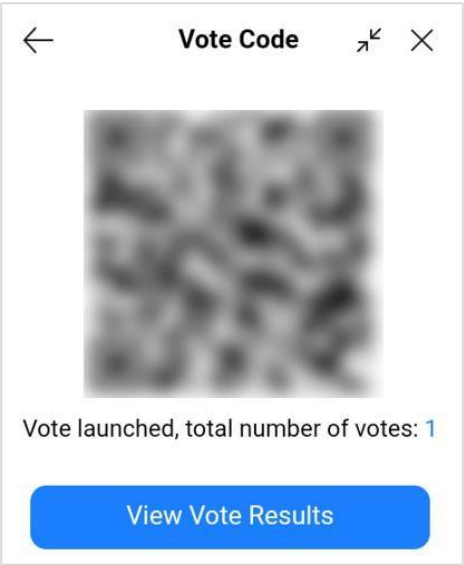


Figure 5-10 携帯電話で投票

Step 4 **投票結果を表示**をクリックして投票を終了し、詳細を確認してください。

Step 5 オプション：携帯電話で投票結果をダウンロードするには「**スキャンしてダウンロード**」をクリックしてください。

詳細投票

Step 1 「**Advanced**」をクリックして、インターネットにアクセスできる携帯電話、またはインタラクティブフラットパネルと同じ LAN 内で、QR コードをスキャンして投票を設定します。

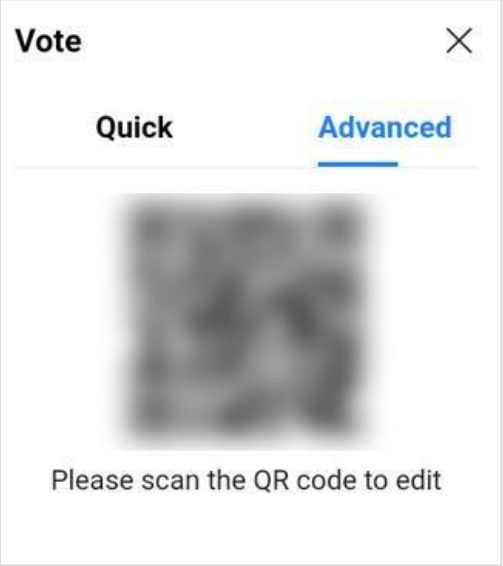


Figure 5-11 詳細投票

Step 2 実際のニーズに応じて、以下のパラメータを設定してください。

- 投票テーマ/投票オプション：カスタム設定。
- 匿名：名前なしで投票。
- 複数選択：投票時に複数の選択肢を選択可能。

Step 3 「**投票を開始**」をクリックすると、携帯電話でコードをスキャンして投票できます。

Step 4 「**投票結果を表示**」をクリックすると投票を終了し、詳細を確認できます。

Step 5 オプション：携帯電話で投票結果をダウンロードするには「**スキャンしてダウンロード**」をクリックしてください。

5.5.4 Random Select

教室では、抽選を開始したり、ランダムに生徒を選んで質問に答えさせることができます。

オプション選択

手順

Step 1 → **ランダム選択** に移動し、選択肢の数を設定します。**次へ**をクリックします。

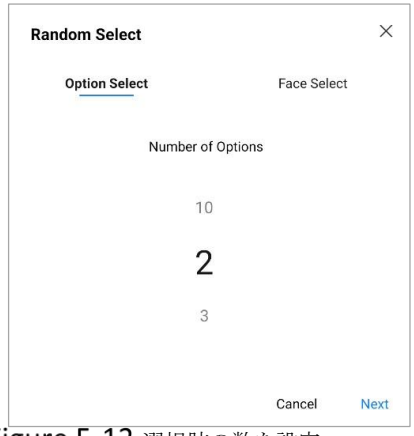


Figure 5-12 選択肢の数を設定

Step 2 「 」をクリックしてラッキークルーズを回転させ、再度クリックすると停止します。するとランダムに選ばれた選択肢が表示されます。

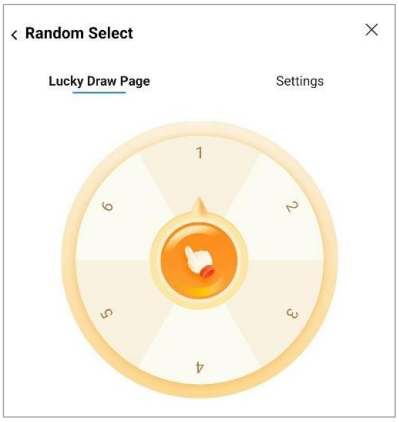


Figure 5-13 ラッキーホイール

Note

設定をタップすると、オプションの名前を編集できます。

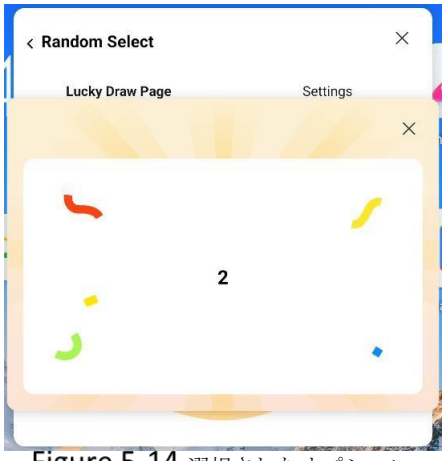


Figure 5-14 選択されたオプション

顔選択

手順

Step 1 「**顔選択**」をタップし、選択する人数を設定します。

Step 2 「**次へ**」をタップします。カメラが教室内の顔認識を開始します。

Step 3 「**開始**」**を**タップすると、カウントダウン後に選択された生徒の顔写真が表示されます。

Note

顔選択はカメラ搭載端末でのみサポートされています。

5.6 カメラ機能

5.6.1 Camera

カメラをクリックして写真やビデオを撮影します。

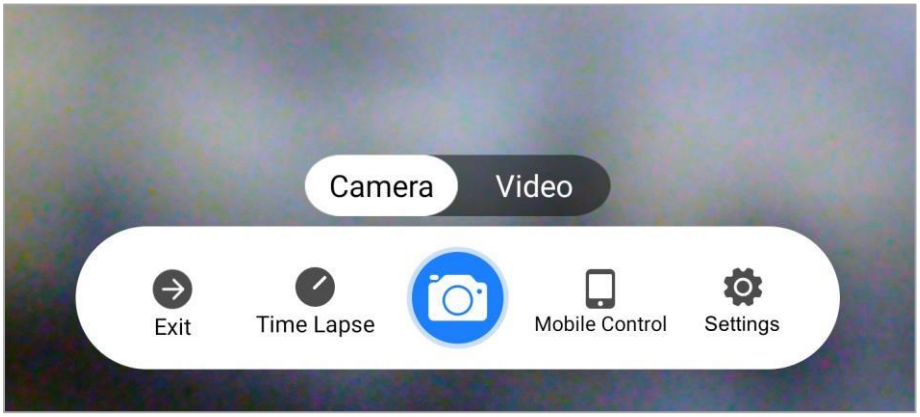


Figure 5-15 カメラ

Table 5-5 スクリーンショットツールバーの説明

アイコン	説明
	カメラを終了します。
	選択した遅延時間に応じて、撮影を遅延させます。
	写真を撮ります。撮影した写真はホワイトボードにインポートするか、スマートフォンに保存できます。
	スマートフォンと端末が同一LANに接続された後、コードをスキャンすることでカメラを操作し写真を撮ることができます。

5.6.2 Video

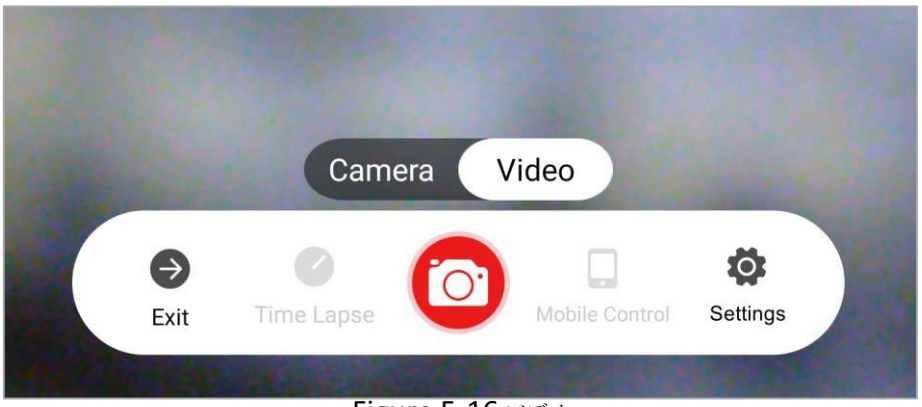


Figure 5-16 ビデオ

Table 5-6 スクリーンショットツールバーの説明

アイコン	説明
	ビデオを終了します。
	録画を開始します。

5.6.3 Settings

設定をクリックして、以下のパラメータを設定します。

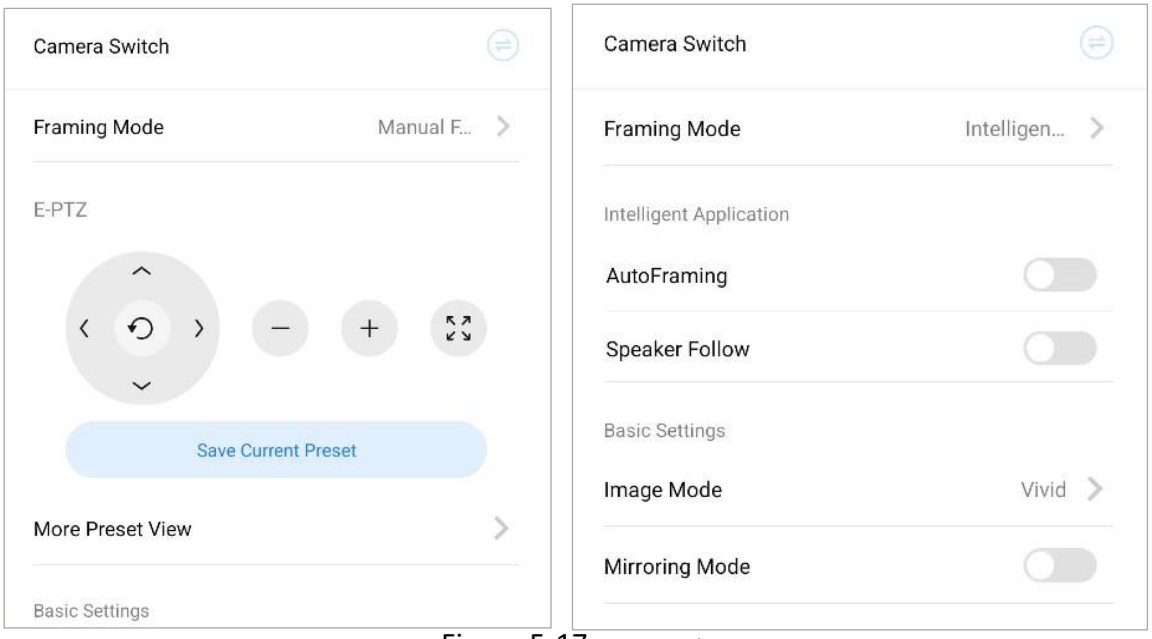


Figure 5-17 カメラ設定

- **カメラ切り替え:**

システムカメラと外部カメラを切り替えるには、システムカメラと外部カメラの切り替え（ ） をクリックしてください。

外部カメラに切り替える場合、システムバーの「 」 をタップし、**カメラ設定を**調整してください。

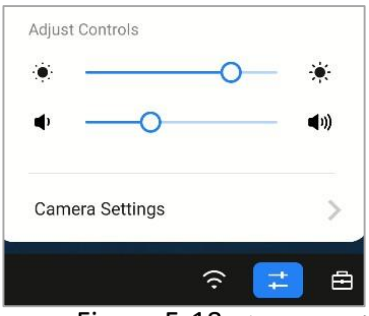


Figure 5-18外部カメラ設定

- **手動フレーミング**：E-PTZでカメラを調整し、プリセットとして保存できます。
- **自動フレーミング：**カメラが自動的に調整し、検出された顔を画面中央に表示します。
- **スピーカー追従**：カメラは検出された話者を自動的に追従し、画面中央に表示します。話者の表示速度は、ゆっくり（**グラデーション**）
  または素早く（**急変**）表示するかを設定できます。
- **画像モード**：画像モードを選択します。**標準**または**鮮やか**。
- **ミラーリングモード**：カメラ画像を反転させます。

第6章 システム設定

デバイスを起動すると、画面にメインページが表示されます。画面を左右にスライドすると、アプリケーション、デバイスの状態、ヘルプ文書を確認できます。

6.1 ネットワーク設定

ネットワークの状態は画面下部に表示されます。

Table 6-1 ネットワーク状態の違い

アイコン	説明
	有線ネットワークに接続されています。
	ワイヤレスネットワークに接続されています。
	ネットワークに接続されていません。

6.1.1 Wired Network Settings

Step 1 **設定 → ネットワーク → 有線ネットワーク**に移動します。

Step 2 **有線ネットワーク**を有効にします。

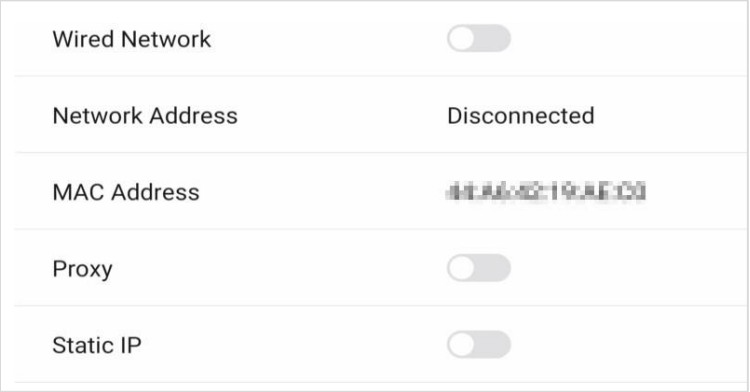


Figure 6-1 有線ネットワーク設定

Step 3 オプション：タップして**プロキシ**または**静的IPを**有効にします。

プロキシ設定

プロキシを有効にした場合、**プロキシホスト**と**ポート番号**を設定し、プロキシを使用しないURLを設定する必要があります。

Figure 6-2 プロキシ設定

静的 IP 設定

静的 IP を有効にした場合、**IP アドレス**、**ゲートウェイ**、**サブネットマスク**、**DNS1**、**DNS2** などのネットワークパラメータを設定する必要があります。

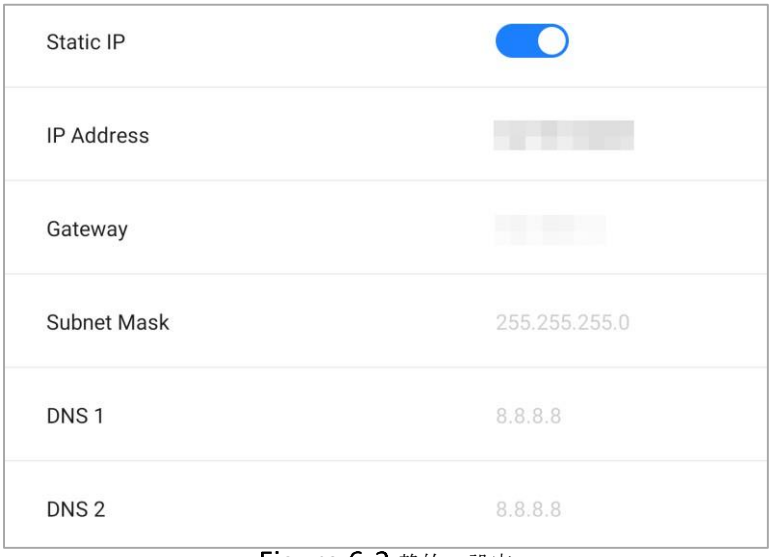


Figure 6-3 静的 IP 設定

6.1.2 Wireless Network Settings

Step 1 **設定 → ネットワーク → ワイヤレスネットワーク** に移動します。

Step 2 WLANを有効にすると、新しいネットワークを追加したり、利用可能なネットワークに接続したりできます。

利用可能なネットワークに接続

- 利用可能なネットワーク一覧から接続したいネットワークをタップし、パスワードを入力して接続します。
- 「**接続**」をタップすると、ネットワーク情報ページが表示されます。「**ネットワークを消去**」をタップすると、選択したネットワークの情報を削除できます。「**キャンセル**」をタップするとページを終了します。

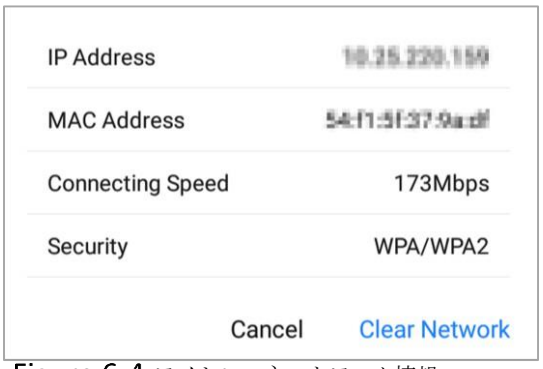


Figure 6-4 ワイヤレスネットワーク情報

その他のネットワークを追加

Step 1 「その他のネットワークを追加」をタップします。

Step 2 Wi-Fi 名を入力し、セキュリティを選択します。

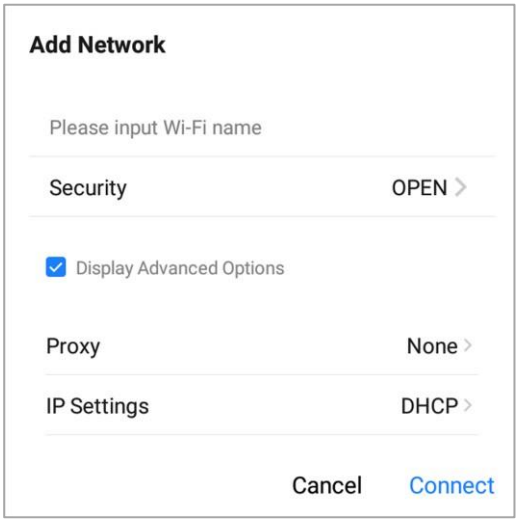


Figure 6-5 他のネットワークを追加

Step 3 オプション: **[詳細設定を表示] を**チェックして、プロキシとネットワーク IP タイプを選択します。

Step 4 **[接続]** をタップして、デバイスを追加したワイヤレスネットワークに接続します。

6.1.3 WLAN Hotspot Settings

デバイスが有線ネットワークに接続されている場合、WLANホットスポットを有効にすることで他のデバイスに無線ネットワークを提供できます。

Step 1 **設定 → ネットワーク → ホットスポット**に移動します。

Step 2 **ポータブルWLANホットスポットを**有効にします。

最適チャネル：有効化後、リストから最適なチャネルを選択できます。

ホットスポット分離：ホットスポット分離を有効にすると、デバイスが LAN に接続されていても、LAN 内のウェブサイトなどのリソースにアクセスできなくなります。

Step 3 ポップアップページでパラメータを設定します。

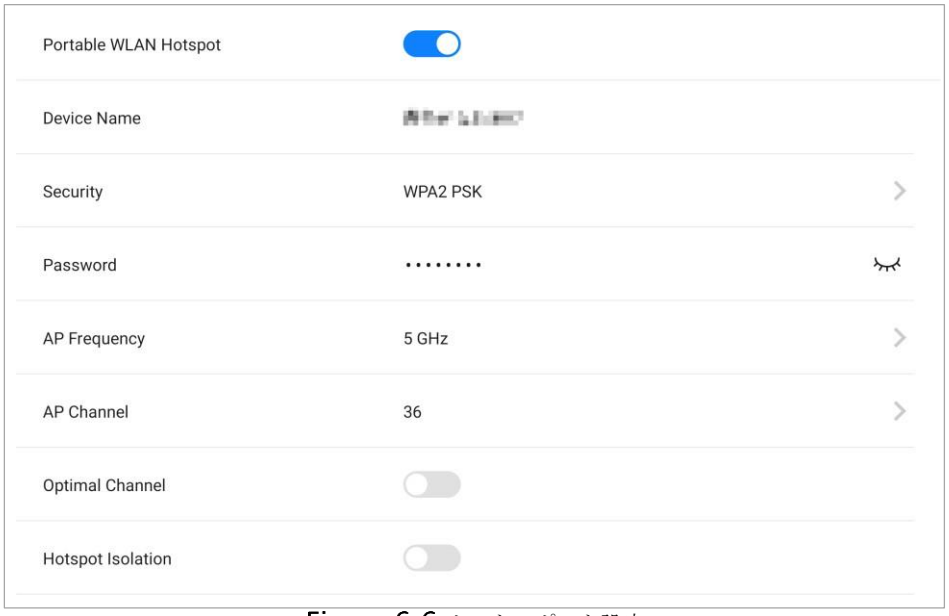


Figure 6-6 ホットスポット設定

Note

デバイスが2.4 GHzと5 GHzの両方をサポートしている場合、ワイヤレス画面ミラーリングなどの機能性を高めるため、**AP周波数に5** GHzを設定し、**APチャンネルには**推奨チャンネルを設定してください。

6.2 ディスプレイ設定

設定 → ディスプレイ に移動し、明るさやスリープ時間などのパラメータを調整します。

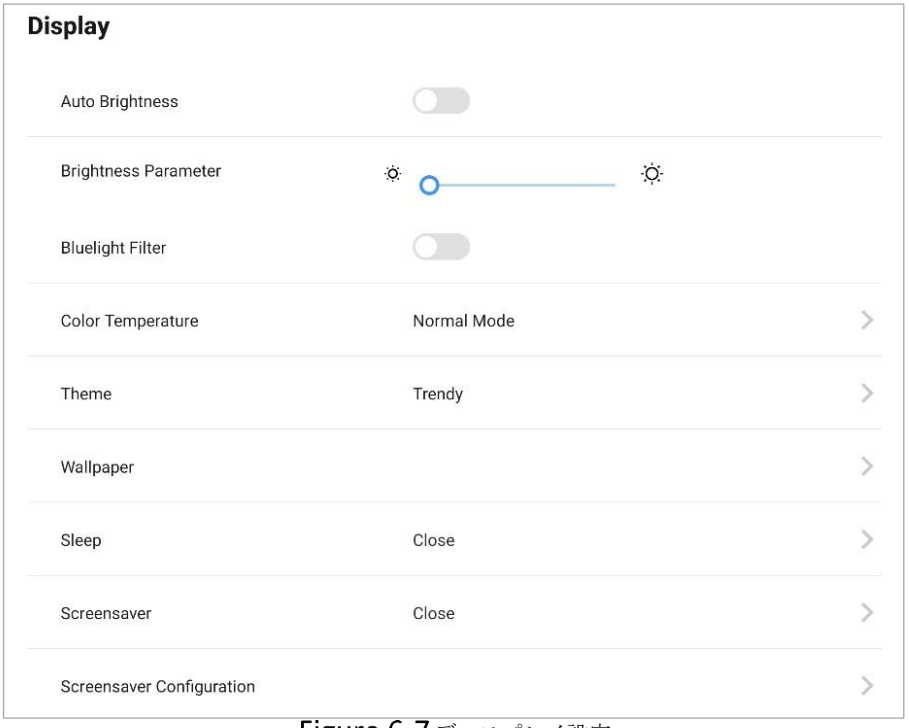


Figure 6-7 ディスプレイ設定

自動輝度

有効にすると、デバイスは環境に応じて自動的に輝度を調整します。

明るさパラメータ

スライダーをスライドさせて画面の明るさを調整します。

ブルーライトフィルター

ブルーライトをカットして目を保護する機能を有効にします。

色温度

タップして、**ハイライト**、**ノーマル**、**クールカラー**、ウォームカラーモードを選択してください。

テーマ

デバイスのテーマを設定します。**設定**をタップして目的のテーマを選択し、**適用**をタップします。

壁紙

壁紙をタップして、壁紙ライブラリまたはシステム画像ライブラリから目的の画像を壁紙として選択するか、デフォルトの壁紙に戻します。

スリープ

スリープモードの非アクティブ期間を設定します。

スクリーンセーバー

スクリーンセーバーを有効にするまでの非活動期間を設定します。

スクリーンセーバーの設定

ポップアップページでスクリーンセーバー画像を選択し、「**ライブビュー**」をタップして効果をプレビューします。
適用をタップすると、選択した画像をスクリーンセーバーとして設定できます。スクリーンセーバーはカスタマイズも可能です。

Note

スクリーンセーバー設定で、[+] をタップすると新しいスクリーンセーバー画像を追加できます。

6.3 オーディオ設定

Step 1 **設定 → オーディオ** でオーディオパラメータを設定します。

Step 2 スピーカーの**音量**を調整します。

Step 3 (オプション) スピーカーの**オーディオ**モードとマイクの**ノイズリダクションレベル**を選択します。

Step 4 （オプション）**音収集エリア**：設定に応じて、音を集めたいエリアの範囲がリアルタイムで変化します。

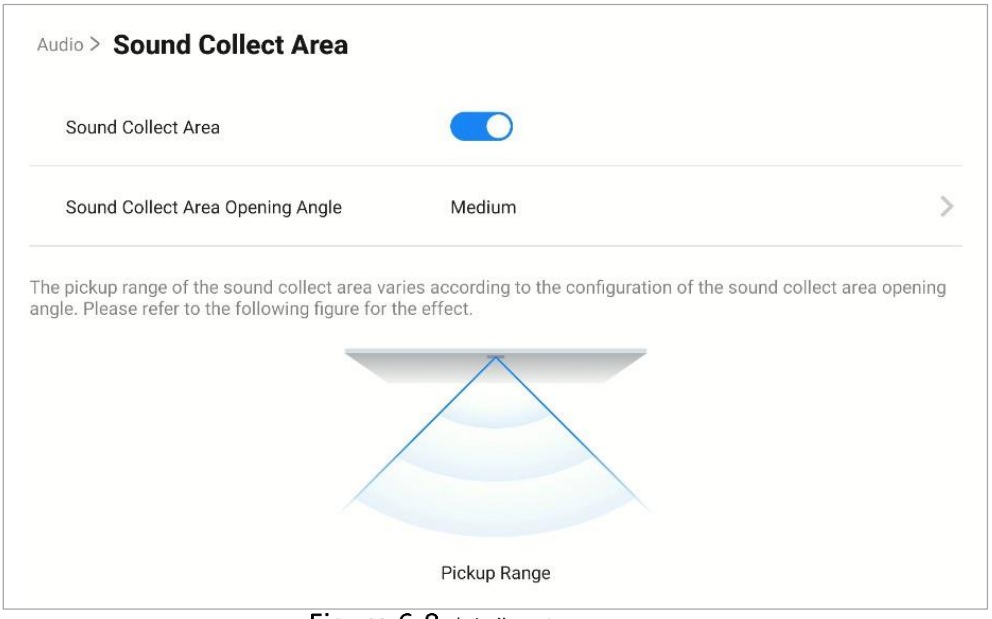


Figure 6-8 音収集エリア

6.4 言語と入力設定

Step 1 **設定 → 言語と入力**に移動します。

Step 2 **言語**をタップして、希望する言語を選択します。

Step 3 **入力方法をタップして**、希望する入力方法を選択します。

Step 4 **地域**をタップして、地域を選択します。

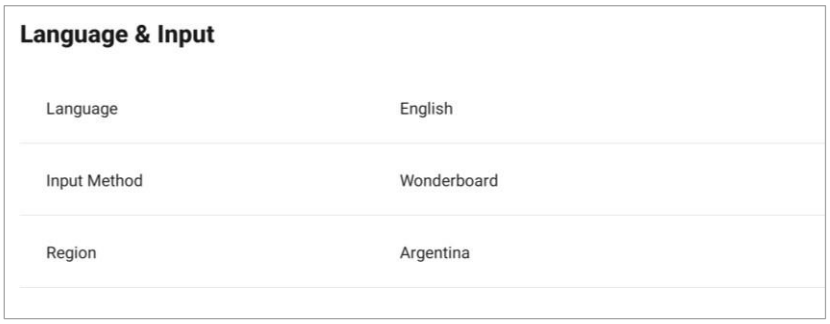


Figure 6-9 言語と入力設定

6.5 日付と時刻の設定

Step 1 **設定 → 日付と時刻** に移動します。

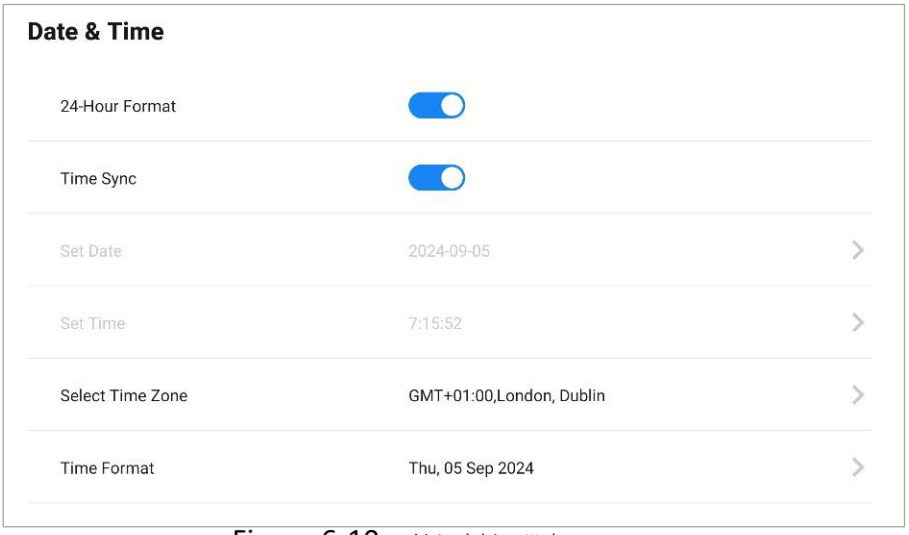


Figure 6-10 日付と時刻の設定

Step 2 **時刻の同期を**有効にします。

Step 3 「**タイムゾーンを選択**」をタップして地域を選択します。

Step 4 (オプション) **24時間形式を**有効にすると、時刻が24時間形式で表示されます。

Step 5 (オプション) **時刻形式**を選択します。

Note

時刻同期が無効の場合、日付と時刻を手動で設定できます。

6.6 アプリケーション管理

Step 1 **設定 → アプリケーション管理** に移動します。

Step 2 詳細を確認したいアプリケーションをタップします。

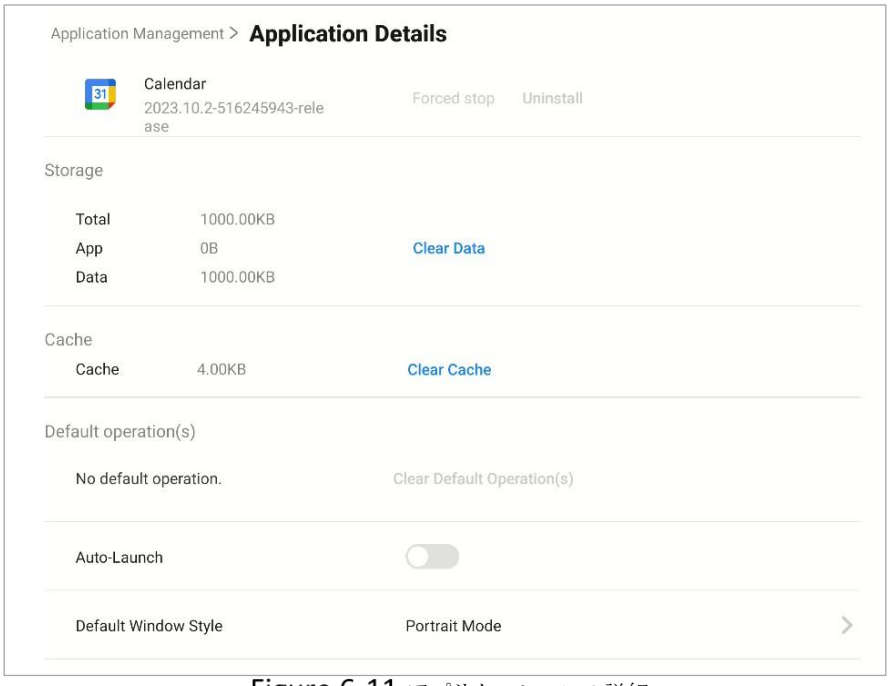


Figure 6-11 アプリケーションの詳細

Note

- 内蔵アプリケーションはアンインストールできません。**アプリケーション詳細の**アイコンをタップすると、アプリケーションを開くことができます。
- サードパーティ製アプリケーションのインストール後、4K表示を有効にできます（機器の再起動後に有効になります）。

Step 3 **自動起動を**有効にします。選択したアプリケーションは、デバイスの電源投入時に自動的に起動します。

Step 4 （オプション）ウィンドウスタイル（縦向き／横向きモード）を選択します。アプリケーションをウィンドウモードで開くと、対応するスタイルで表示されます。

6.7 Bluetooth

リモコン、オーディオ、キーボードなどをBluetooth経由で接続でき、ファイル転送も可能です。

Bluetoothを有効にして、近くにある利用可能なデバイスを検索し、目的のデバイスをタップして接続します。

6.8 補助機能

6.8.1 Sidebar

サイドバーを有効にすると、注釈、信号ソースの切り替え、コントロールメニューのツール、明るさの調整など、一部の機能のクイック操作が見つかります。

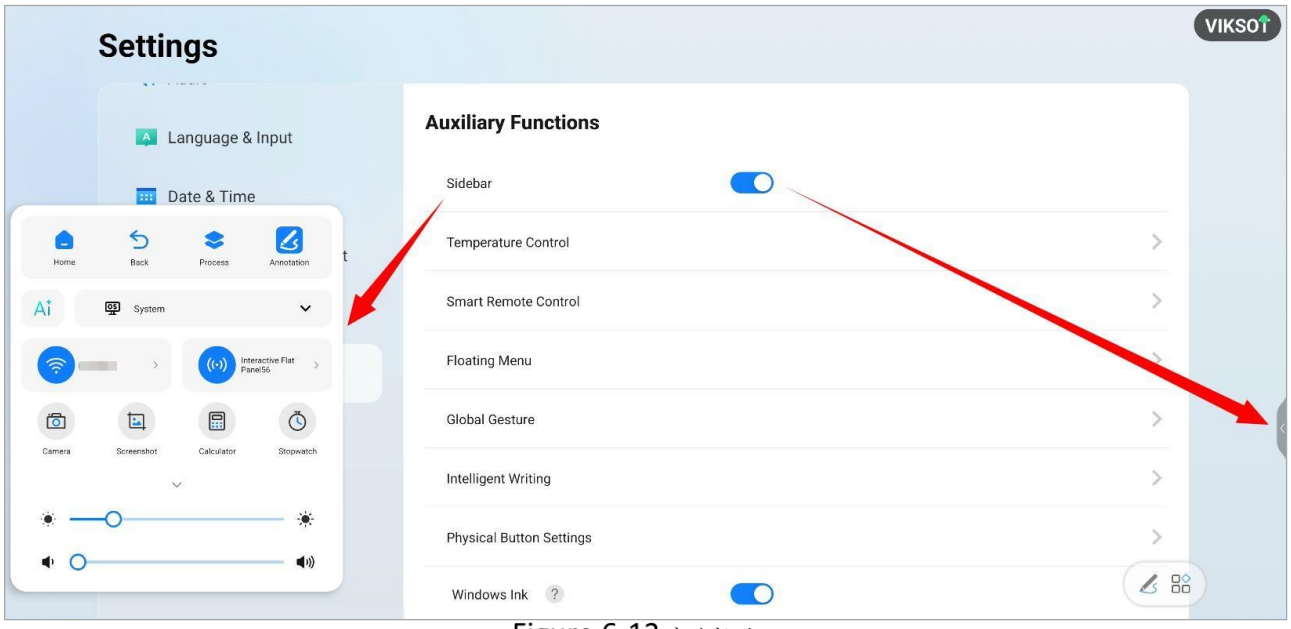


Figure 6-12 サイドバー

6.8.2 Intelligent Temperature Control

本装置は内部温度をリアルタイムで監視します。設定した警告温度または警報温度の上限を超えた場合、装置はプロンプトメッセージを表示し、タイムリーな対応を促します。

Step 1 **設定 → 補助機能 → 温度制御** に移動してください。

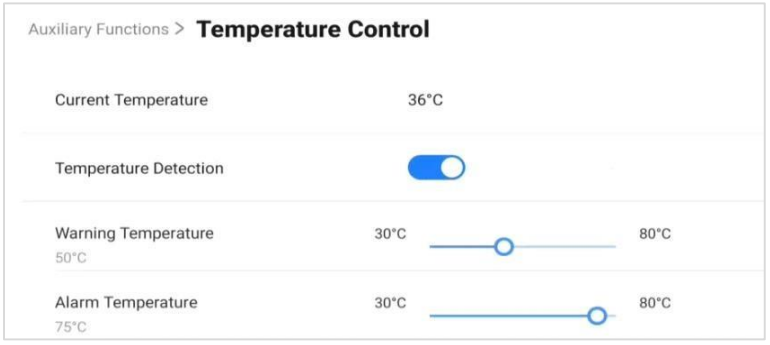


Figure 6-13 インテリジェント温度制御

Step 2 **温度検出を**有効にする。

Step 3 スライド操作で**警告温度**と**警報温度**を設定します。

Note

設定した警報温度の上限を超えた場合、ポップアップメッセージの指示に従いデバイスをオフにしてください。

6.8.3 Smart Remote Control (Optional)

リモコンでデバイスを操作できます。

設定 → 補助機能 → スマートリモコン に移動し、リモコン設定ページに入ります。

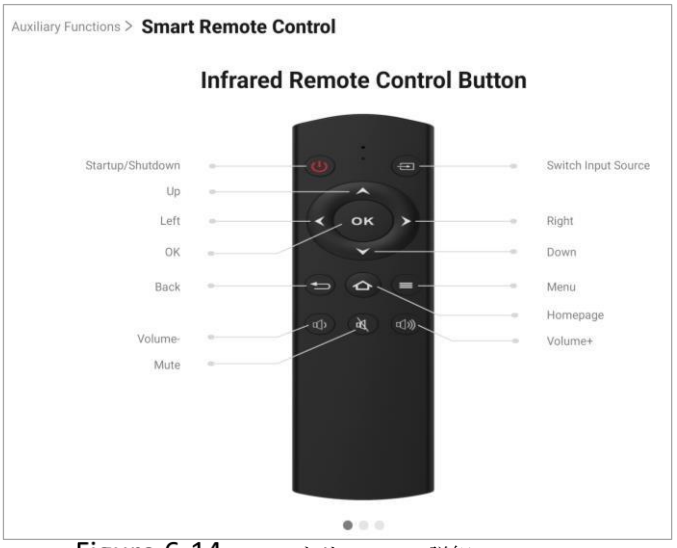


Figure 6-14 スマートリモコンの詳細

6.8.4 Floating Menu

フローティングメニュー機能を有効にし、フローティングボールに表示する機能を設定します。

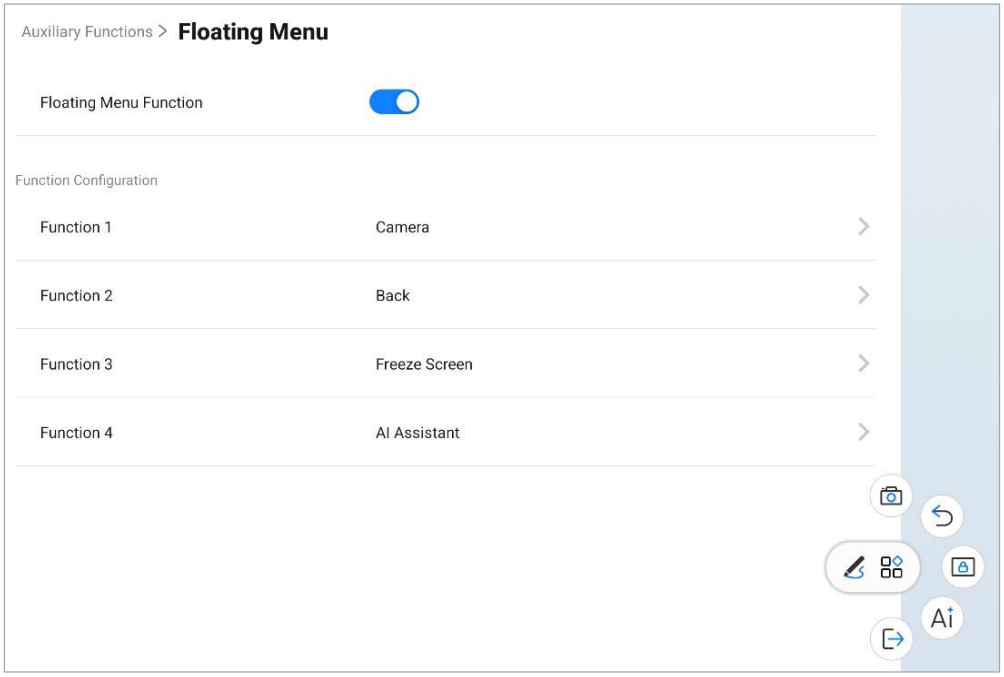


Figure 6-15 フローティングメニュー

6.8.5 Global Gesture

対応するジェスチャーの機能を設定します。

6.8.6 Intelligent Writing

手順

Step 1 **タッチ&書き込みを**有効にします。スタイラスで直接書き込むことができ、デバイスは自動的に注釈モードに入ります。

Step 2 （オプション）**指とペンの分離を**有効にすると、スタイラスでの書き込みと指での操作が可能になります。

6.8.7 Physical Button Settings

物理ボタンの機能はカスタマイズ可能です。

手順

Step 1 **設定 → 補助機能 → 物理ボタン設定** に移動します。

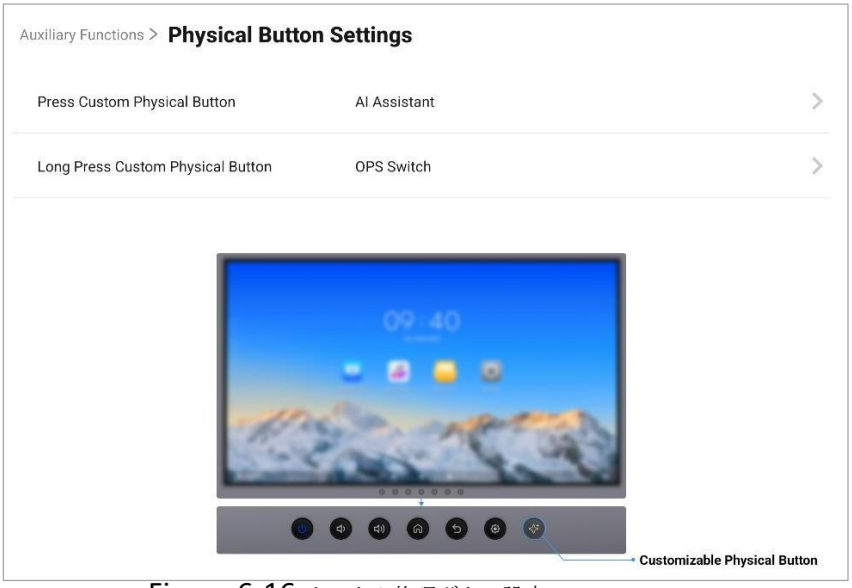


Figure 6-16 カスタム物理ボタン設定

Step 2 **カスタム物理ボタンを押して**、次のいずれかの機能を設定します：操作なし、OPSスイッチ、OPSに切り替える、クイック録画画面、クイックホワイトボード起動、AIアシスタント。デフォルト設定**はAIアシスタントです**。

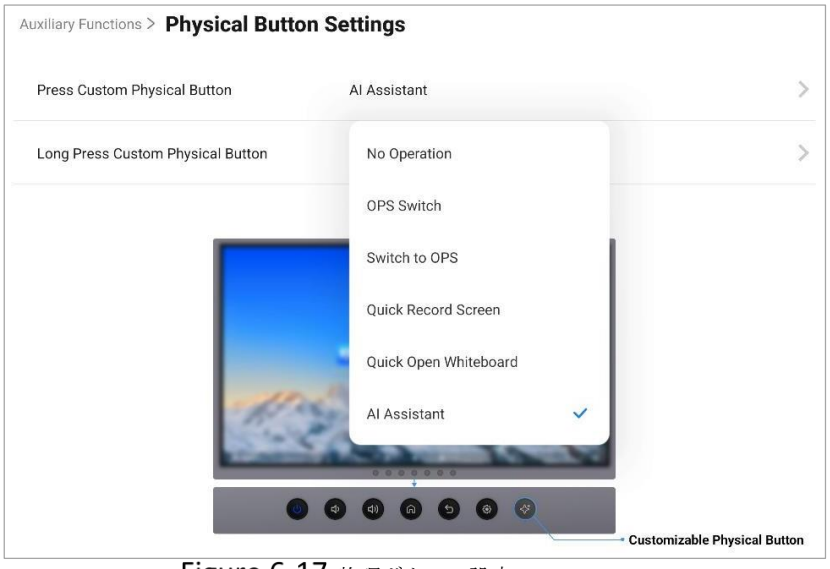


Figure 6-17 物理ボタンの設定

Step 3 **カスタム物理ボタンを長押し**をタップして機能を設定します。物理ボタンを長押しすると、設定した対応する機能が動作します。

6.8.8 Windows Ink

タッチデバイスをインタラクティブフラットパネルに接続したら、**Windows Inkを**有効にしてください。これにより、タッチデバイスで追加した注釈をインタラクティブフラットパネルに表示できます。

6.9 詳細設定

設定 → 詳細設定を選択します。以下のパラメータを設定できます。

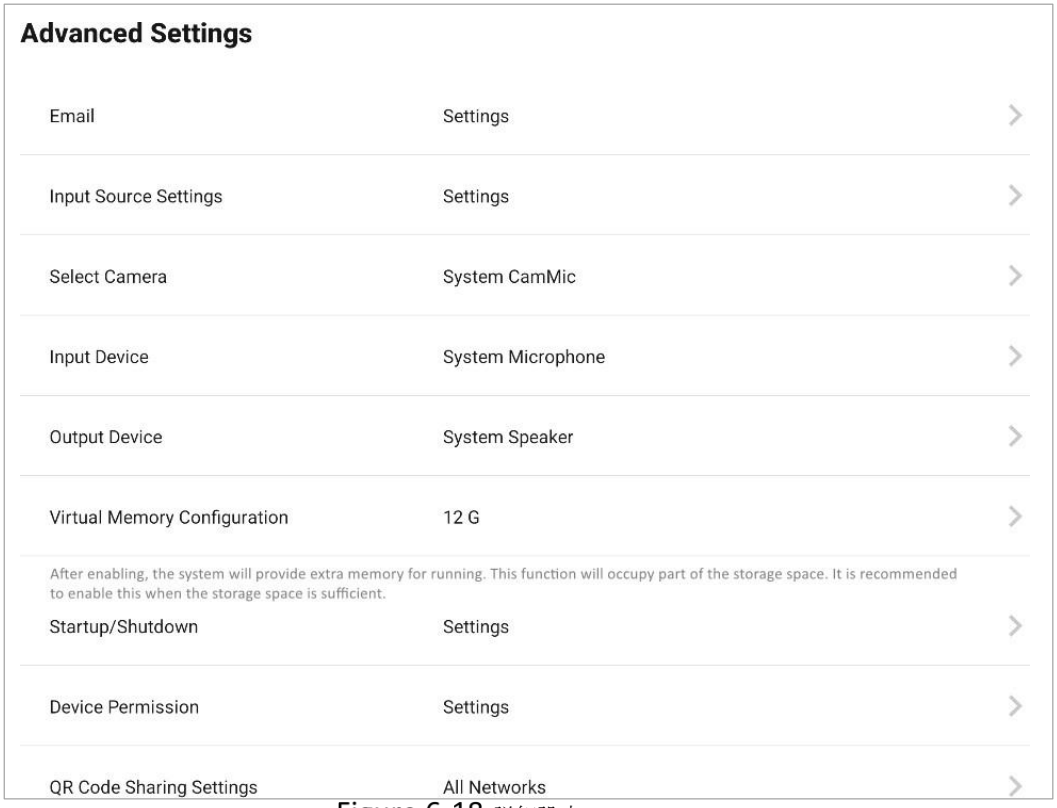


Figure 6-18 詳細設定

電子メール

ホワイトボードから共有コンテンツを受信する E-mail アドレスを設定します。

入力ソース設定

- **起動時の入力ソース**

  デバイスの起動時に、希望の入力ソースを選択してください。内蔵システムまたは外部入力ソースを選択できます。デフォルトの起動入力ソースはAndroidです。入力ソース名のカスタマイズがサポートされています。

  名を変更できます。

- **信号源接続時の自動切り替え**

  この機能を有効にすると、外部入力ソースが接続されたときに、システムは新しく接続された入力ソースに切り替わります。

- **信号源が切断された場合の自動切り替え**

  この機能を有効にすると、外部入力ソースからデバイスが切断されると、システムは設定済みの入力ソースに切り替わります。

カメラの選択

デバイスに接続されている外部カメラの中から選択してください。

入力デバイス

外部 USB / LINE IN 入力オーディオデバイスをサポートし、システムまたは複数のデバイスからオーディオ入力デバイスを選択できます。

出力デバイス

外部 USB 出力オーディオデバイスをサポートし、システムまたは複数のデバイスからオーディオ出力デバイスを選択できます。

仮想メモリ設定

実行用の仮想メモリを設定します。

起動/シャットダウン設定

- 起動モード

  起動またはスタンバイを選択します。

- スケジュールされた起動/シャットダウン

  起動およびシャットダウンのスケジュールを設定します。

- 信号なしシャットダウン

  信号が利用できない場合の自動シャットダウン時間を設定します。

デバイスの権限設定

- **Wi-Fiを無効にする**

  Wi-Fiが無効の場合、デバイスは無線ネットワークに接続できません。

- コピー権限オフ

  USB ディスクからのコピーが無効の場合、デバイスは外部ディスクから読み取ることができません。

QRコード共有設定

インターネットにアクセスできる他の端末デバイス、またはインタラクティブフラットパネルと同じ LAN 内の端末デバイスでスキャンした QR コードを通じて、ホワイトボードのコンテンツを共有します。

ウェイクアップ設定

- シリアルポートからのウェイクアップ

  この機能が有効の場合、スタンバイ状態のデバイスはシリアルポートコマンドで起動できます。

- 信号源からの起動

HDMI信号による起動はデフォルトで有効です。電源オフ状態のデバイスは、HDMI入力により電源をオンにできます。

Note

この機能を無効にすると、スタンバイ状態のデバイスは電源スイッチまたはリモコンの電源スイッチで起動でき、シリアルポートおよび HDMI 経由では起動できません。

EDID バージョン

EDID のバージョン選択をサポートします。

HDMI出力設定

HDMIインターフェースを介してデバイスを接続し、コンテンツを共有します。希望の解像度を設定し、HDCP（高帯域幅デジタルコンテンツ保護）を有効にし、オーディオを出力デバイスまたは両方のデバイス（インタラクティブフラットパネルと出力デバイス）で再生するかを選択できます。

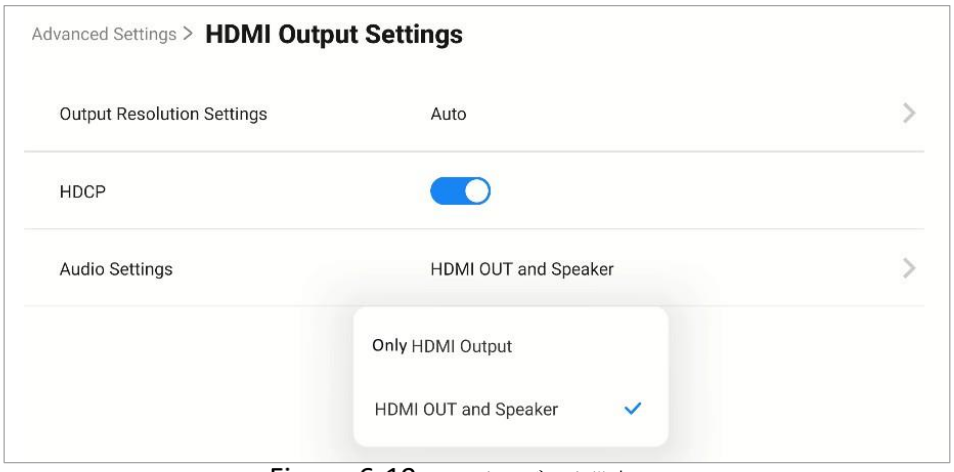


Figure 6-19 HDMIオーディオ設定

Note

HDCP機能を有効にするには、フラットパネルに接続されたディスプレイがHDCP機能をサポートしている必要があります。

起動アニメーション設定

- アニメーションファイルをUSBフラッシュドライブのルートディレクトリに配置し、「**ブートアニメーションを設定**」をクリックします。システムは自動的に適格なアニメーションファイルを検出し、置き換えます。
- **ブートアニメーションのリセット**をクリックすると、工場出荷時の設定に復元されます。

Note

ブートロゴはBMP形式で、画像のビット深度は8ビットであること。ブートアニメーションファイルはPNGまたはJPG形式であること。

6.10 アカウント管理

共有インタラクティブフラットパネルに複数のアカウントを設定し、各アカウントごとに個別のサインイン情報を設定できます。これにより、異なるユーザーが自身のファイル、ブラウザのお気に入り、設定にアクセスできるようになります。

設定を許可できます。アカウント作成後、デバイス起動時に任意のアカウントを選択してログインできます。

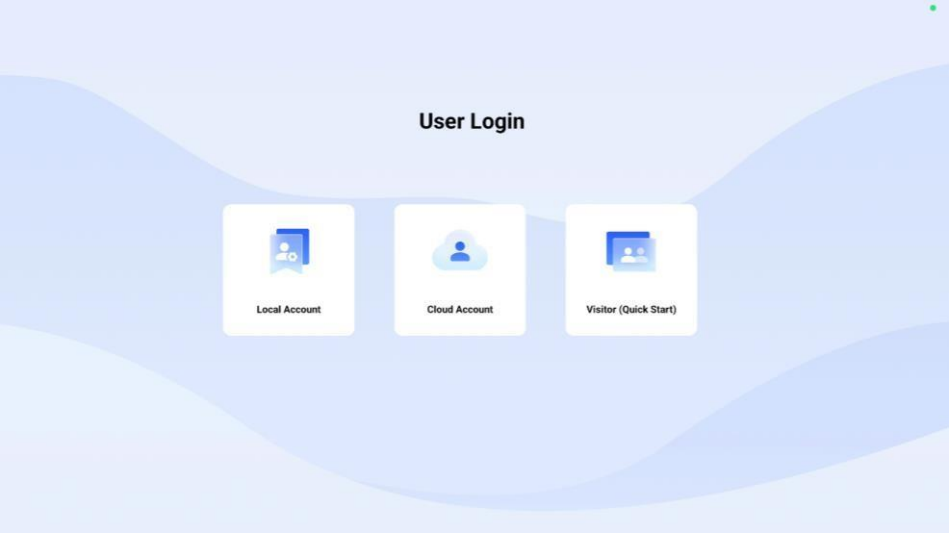


Figure 6-20 ユーザーログ

6.10.1 Multi-Account Mode

設定 → アカウント管理に移動し、**マルチアカウントモードを**有効にすると、デバイスのアカウントを管理できます。

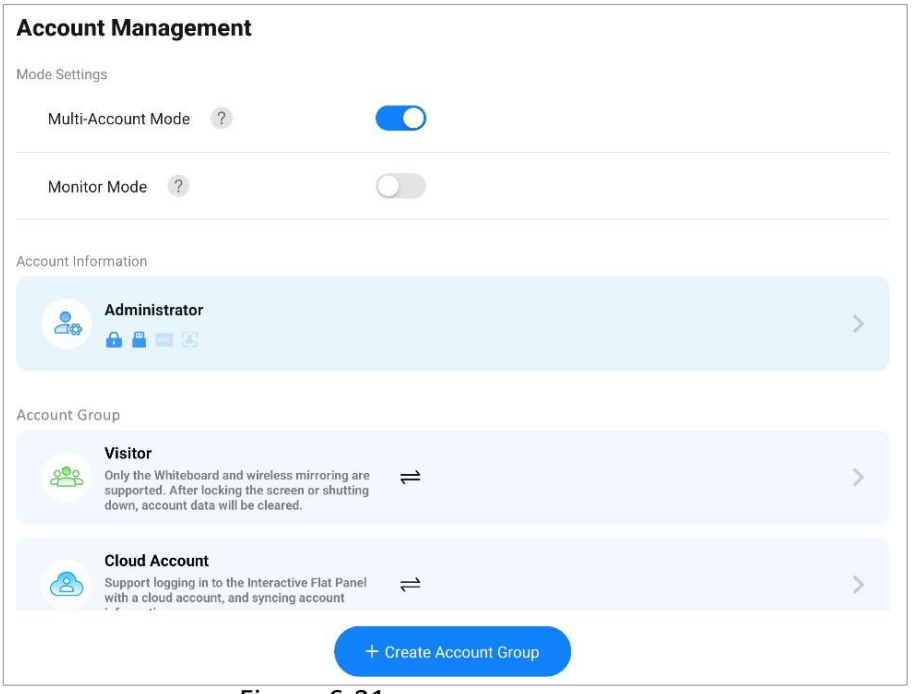


Figure 6-21 アカウント管理

Table 6-2 アカウントタイプ

アカウントタイプ	説明
ローカルアカウント	アカウントグループ内でローカルデバイスによって作成されたアカウント。 ローカルアカウントには、パスワード、顔認証、アンロックカード、またはアンロックUSBフラッシュドライブでログインできます。
クラウドアカウント	WonderHub Class上で作成されたアカウントです。WonderHub Classの設定や情報は、デバイスのクラウドアカウントに同期できます。 クラウドアカウントには、パスワード、QRコード、またはアンロックカードでログインできます。 **Note** クラウドアカウントからログアウトすると、そのデバイスでのログインセッション中に生成されたすべてのデータ（設定、作成されたファイル、インストールされたアプリケーションを含む）が消去されます。
ゲスト	権限が制限されたゲストアカウント。

Note

画面ロック時、シャットダウン時、または電源オフ時に、アカウントはログアウトされます。

Table 6-3 アイコンの説明

アイコン	説明
+ Create Account Group	アカウントグループを作成します。
+ Add Account	アカウントグループにアカウントを追加します。
⇌	アカウントを切り替えます。対応するアカウントのパスワードを入力してログインします。
🗑	アカウントを削除します。このアカウントのデータはデバイスからも削除されます。

ログインパスワード

タップしてパスワードを変更します。

USBフラッシュディスクのロック解除

タップしてUSBフラッシュディスクによるログイン方法を設定します。設定後、USBフラッシュドライブを挿入するだけで直接ログインできます。

手順

Step 1 **USBフラッシュディスクのロック解除**をタップします。

Step 2 ログインパスワードを入力し、USBフラッシュドライブを1本挿入してください。

Note

- 一般ユーザーがパスワードを忘れた場合は、管理者に連絡してください。
- 管理者がパスワードを忘れた場合は、USBフラッシュディスクによるロック解除を試みてください。
- 管理者ログインでは、パスワードによるログインの有無を設定できます。

Step 3 「**ファイルを生成**」をクリックしてください。デバイスが自動的にUSBフラッシュドライブ内にアンロックファイルを生成します。ファイル生成後は、次回からUSBフラッシュドライブを直接挿入するだけで簡単にログインできます。

Figure 6-22 アンロック用USBフラッシュドライブの接続

アンロックカード

タップしてアンロックカードによるログイン方法を設定します。

手順

Step 1 「**アンロックカード**」をタップします。

Step 2 ログインパスワードを入力すると、「**アンロックカードを接続**」が表示されます。

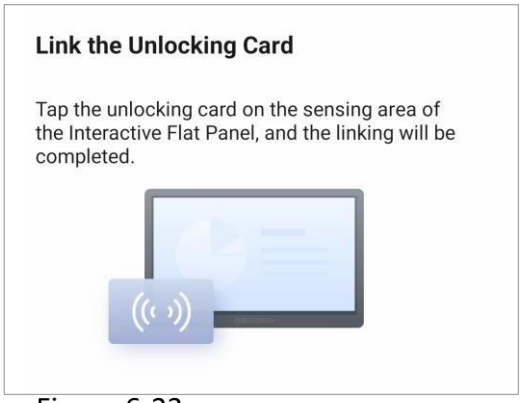


Figure 6-23 アンロックカードをリンクする

NFCデバイスを端末のNFC感知エリアにタッチしてください。連携が完了すると、次回からは直接ロック解除カードを感知エリアにタッチするだけでログインできます。

顔認証（ローカルアカウント）

顔認証をタップして顔写真を追加します。顔写真を設定後、顔認証でローカルアカウントにログインできます。

クラウドアカウント／ゲストの無効化

管理者はクラウドアカウントとゲストの有効化/無効化が可能です。両アカウントが無効の場合、ローカルアカウントでのみログインできます。

Figure 6-24 ゲストを有効にする

アカウントグループ権限設定

管理者は、ネットワーク設定やBluetoothを含む他のアカウントへの権限付与を許可されています。

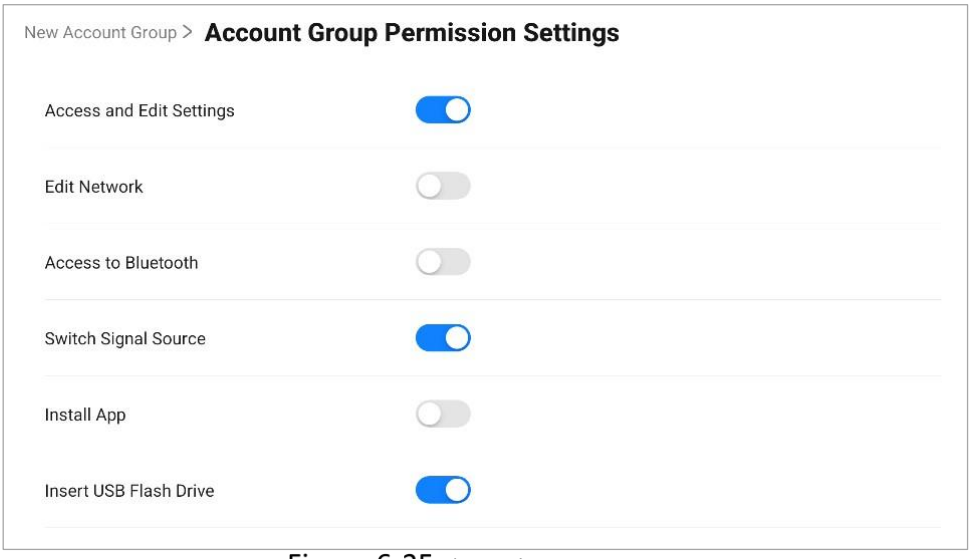


Figure 6-25 権限設定

6.10.2 Monitor Mode

モニターモードを有効にし、PCをインタラクティブフラットパネルに接続します。デバイスはモニターとして動作し、PCの映像をそのまま表示します。

Note

- Androidシステムはサポートされておらず、信号ソースの切り替えのみ対応しています。
- 前面パネルの電源ボタンと音量ボタンのみが機能します。

6.11 デバイス情報

設定 → 端末情報 に移動して端末情報を確認してください。端末名はカスタマイズ可能で、端末をデフォルト設定に復元できます。

Caution

設定をデフォルト状態に復元すると、すべてのデータが失われます。

6.12 ネガティブ画面

画面左側から右へスワイプするとネガティブスクリーンが表示され、湿度・温度・デバイス状態・システムヘルプを確認できます。

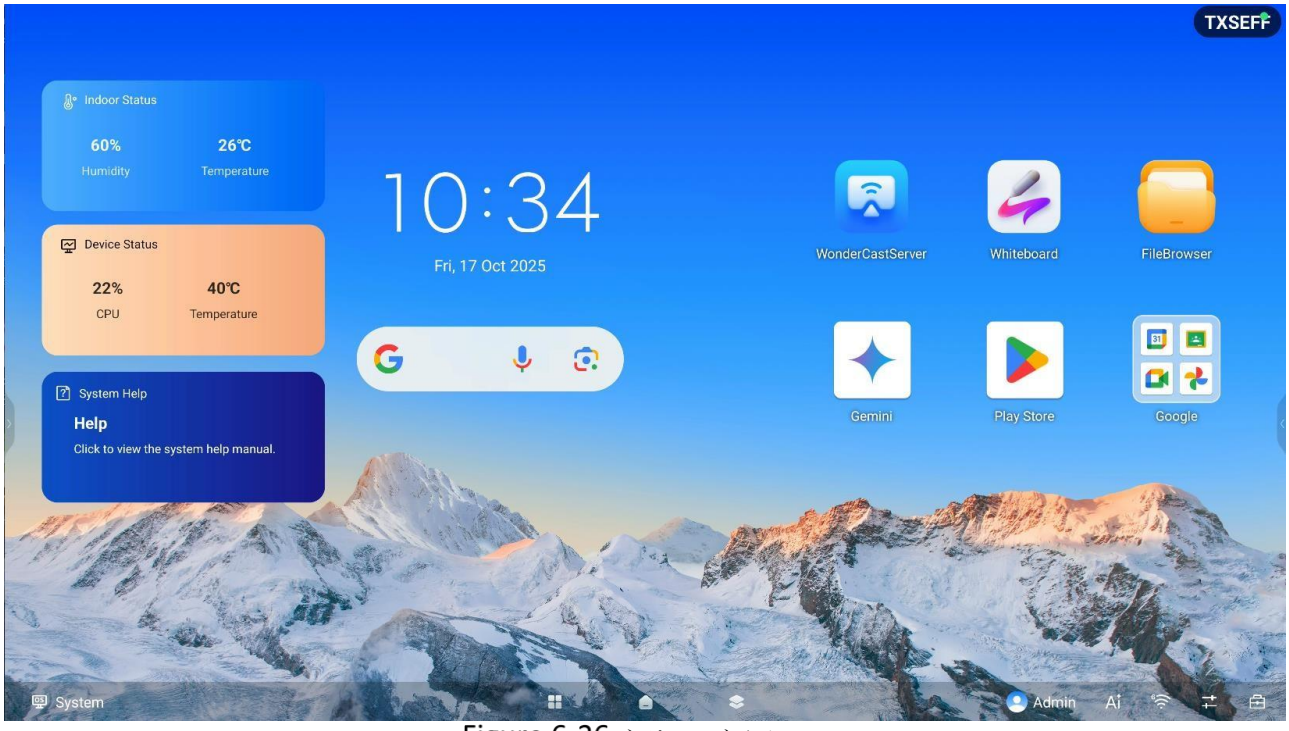


Figure 6-26 ネガティブ画面

第7章 インテリジェントアプリケーション

7.1 ファイルブラウザ

メインページで**ファイルブラウザ**をタップしてください。デフォルトでは、現在のディレクトリ下の全ファイルが表示されます。

7.1.1 Local Storage

画像、**ドキュメント**、**A/V**、**インストールパッケージ**をタップすると、指定したファイルを表示します。アイコンの説明は以下の通りです。

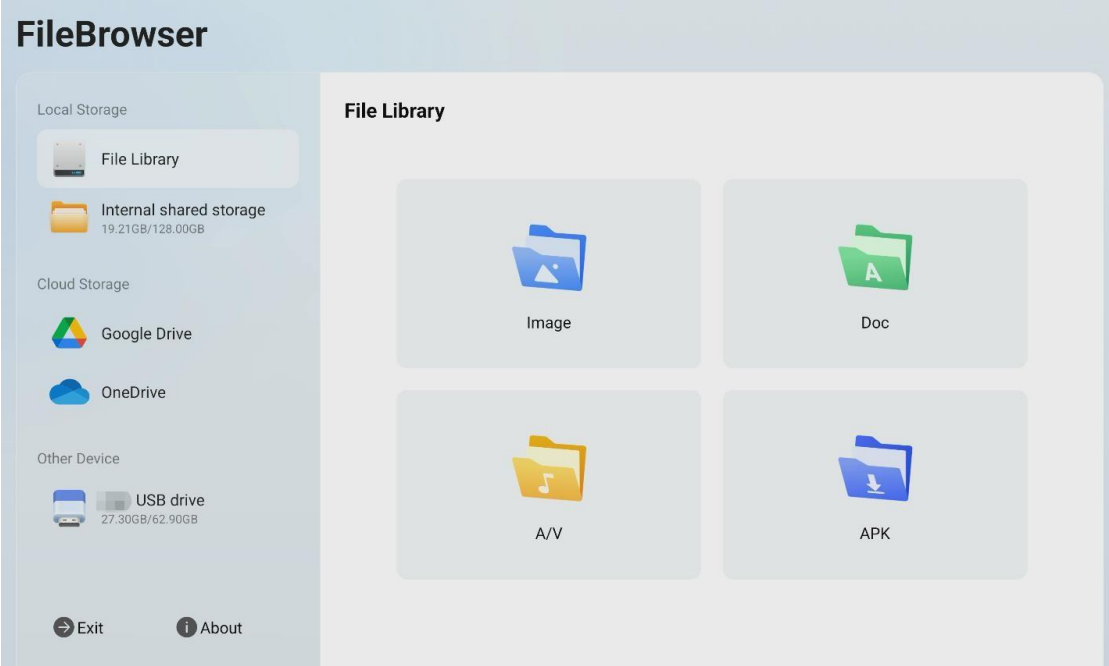


Figure 7-1 ファイル管理

Table 7-1 ファイル管理アイコンの説明

アイコン	説明	アイコン	説明
戻る/進む	前のページ/次のページへ移動します。	新規作成	新しいフォルダを作成します。
グリッド/リスト	ファイルをグリッドまたはリストモードで表示します。	並べ替え	ファイルの順序を変更します。
編集	ファイルを編集します。	/	/

をタップしてドキュメントを編集します。その他の機能は以下の通りです。

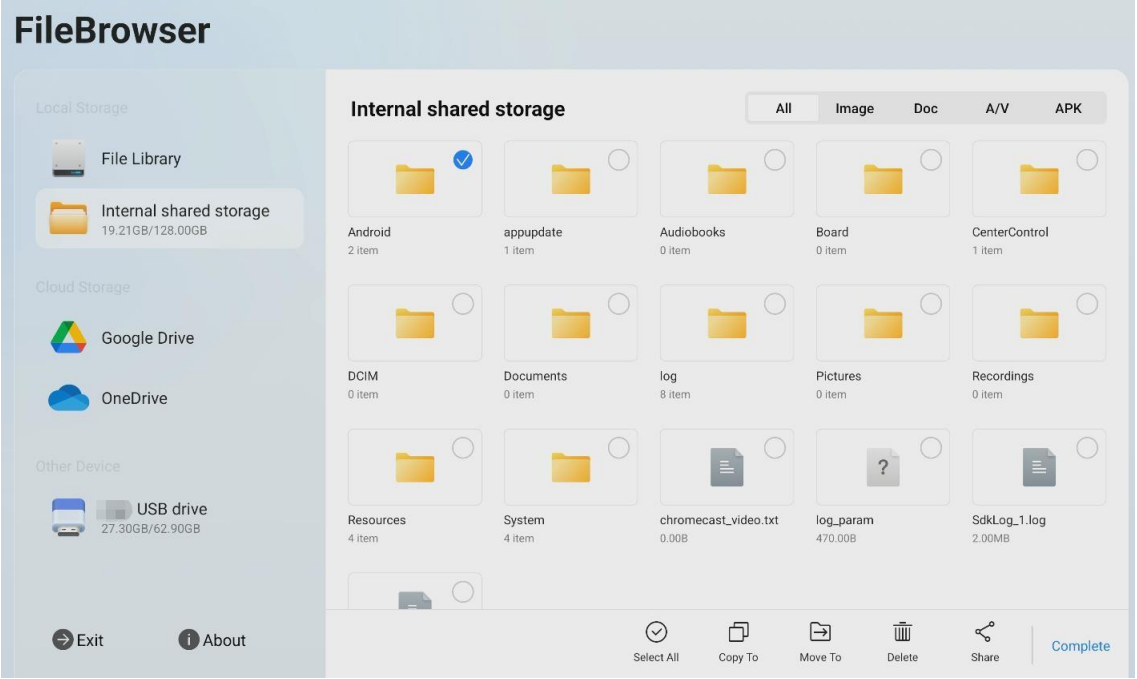


Figure 7-2ファイルの編集

Table 7-2編集アイコンの説明

アイコン	説明	アイコン	説明
すべて選択	すべてのファイルを選択します。	コピー	選択したファイルを別のフォルダにコピーします。
移動	選択したファイルを別のフォルダに移動します。	削除	選択したファイルを削除します。
共有	選択したファイルを共有します。	/	/

Note

ファイルを長押ししてその他の操作を実行します。

SDカードを挿入し、**内部共有ストレージB**でストレージの内容を確認してください。

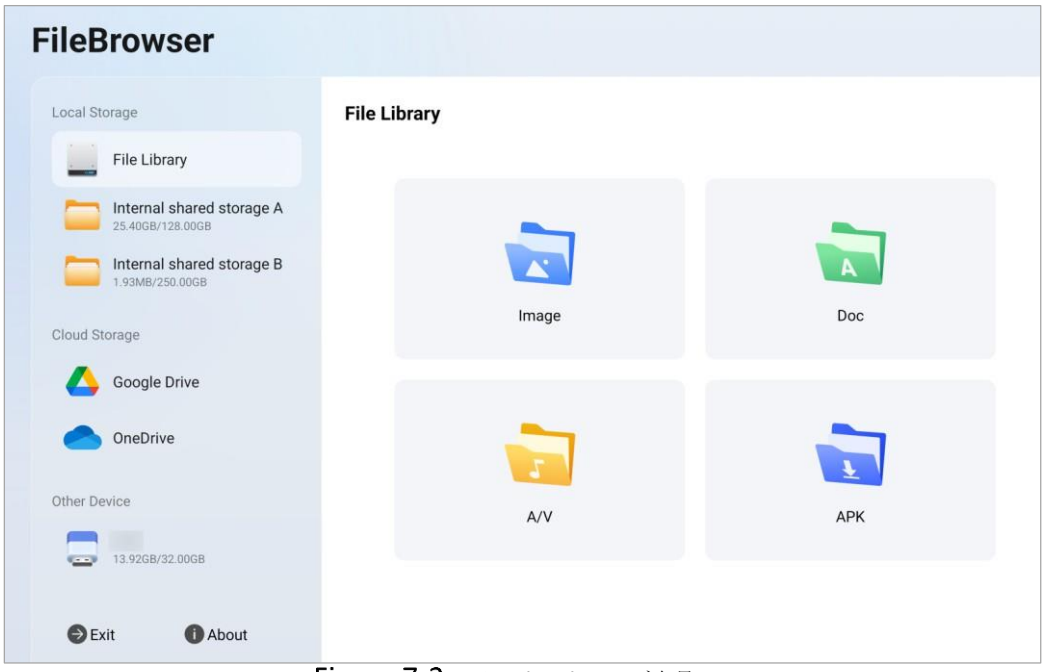


Figure 7-3 SDカードストレージ容量

7.1.2 Cloud Storage

ご自身のアカウントにログインして、クラウドストレージの内容を確認してください。

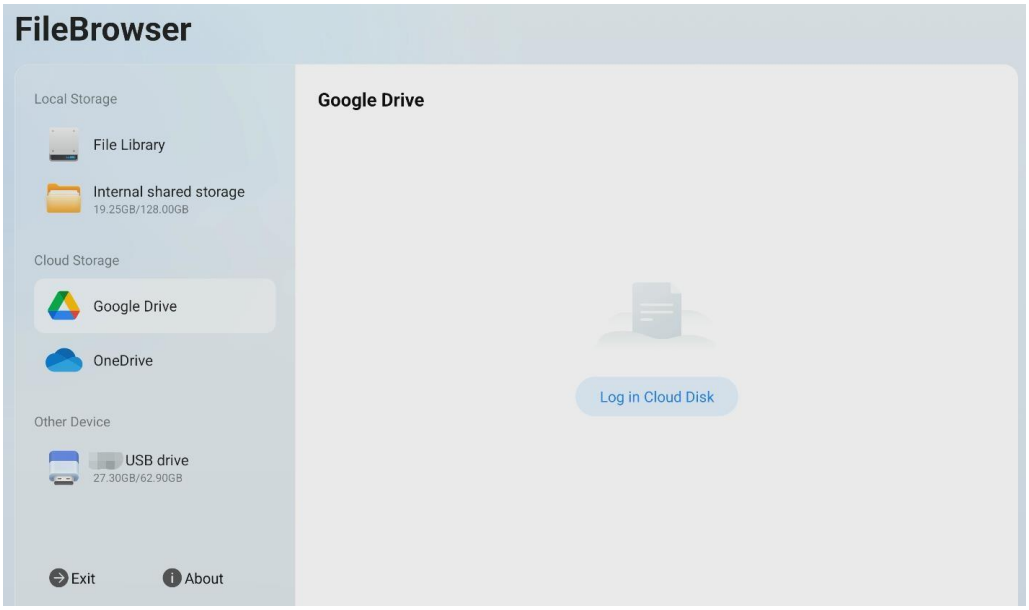


Figure 7-4 クラウドストレージ

7.2 ブラウザ

デバイスをインターネットに接続し、**「ブラウザ」を**タップします。アドレスバーにURLを入力すると、インターネット上のテキスト、画像、音声、動画を閲覧できます。

7.3 ホワイトボード

ホワイトボードは、タッチ書き込み、画像挿入、コンテンツ共有などの機能を統合した編集ソフトウェアです。ユーザーは異なる背景のボードを追加し、タッチ書き込み、消去、ページ切り替え操作が可能です。画像のインポートと編集をサポートし、ホワイトボードの内容が完成したら、ローカルに保存したりメールで共有したりできます。

7.3.1 Toolbar Basic Operation

ツールバーを使用すると、ホワイトボード上で書き込み、消去、選択、復元/取り消し、その他の操作を行うことができます。

Figure 7-5 ツールバー

書き込み

書き込み機能は、ホワイトボードに書き込むために使用します。ツールバーの「 」 をタップすると、ブラシの種類、色、太さなどのパラメータを調整できます。

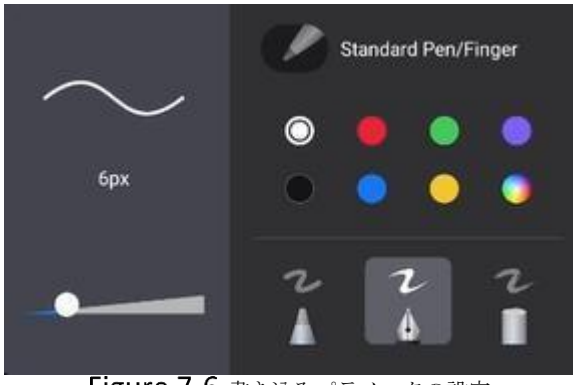


Figure 7-6 書き込みパラメータの設定

消去

消去機能は、ホワイトボードに書かれた内容を消去するために使用します。ツールバーの「 」 をタップして、以下の操作を選択します：

- 部分消去：をタップし、消去したい領域上で消しゴムをクリック＆ドラッグすると、覆われた領域の内容が消去されます。スライダーをスライドさせて消しゴムのサイズを調整することも可能です。

- 円形消去：をタップし、削除したい領域を円形に囲みます。円内をタッチした軌跡の内容が削除されます。
- すべて消去：をタップすると、現在のホワイトボードページに書かれた内容をすべて消去します。
- ジェスチャー消去：手のひらまたは手の甲を画面に接触させると、大規模な消去操作を実行できます。

円形選択

タップ ツールバーの「円形選択」アイコン（）または「矩形選択」アイコン（）をタップして任意の形状の領域または矩形領域を選択し、その領域内のコンテンツを編集します。

Table 7-3 円形選択機能

アイコン	説明
	選択したコンテンツを AI で識別します。
	選択したコンテンツをブラウザで検索します。
	選択領域内の線の色を均一に変更します。
	領域の内容をコピーします。
	選択範囲内の内容を削除します。
Emoji	選択した内容を絵文字に変換します。
AI Example Sentences AI Encyclopedia AI Smart Questions	「***AI Identify***」の機能。
Lock	選択した領域内のコンテンツをロックします。領域を長押しするか、をタップしてロックを解除します。
Bring to Front Bring Forward Send Backward Send to Back	レイヤーを前面または背面に調整します。

Note

- 選択領域内のコンテンツのサイズ変更、移動、回転をサポートします。
- 選択範囲の外側をタップすると、選択範囲が解除されます。

元に戻す／やり直し

誤って書き込んだり消去したりした場合、元に戻すツールで操作を元に戻せます。

- : クリックすると直前の操作を元に戻します；
- : 前の操作をやり直すにはクリックしてください。

7.3.2 More Tools

ツールバーの「 」 をタップすると、以下のツールが表示されます：

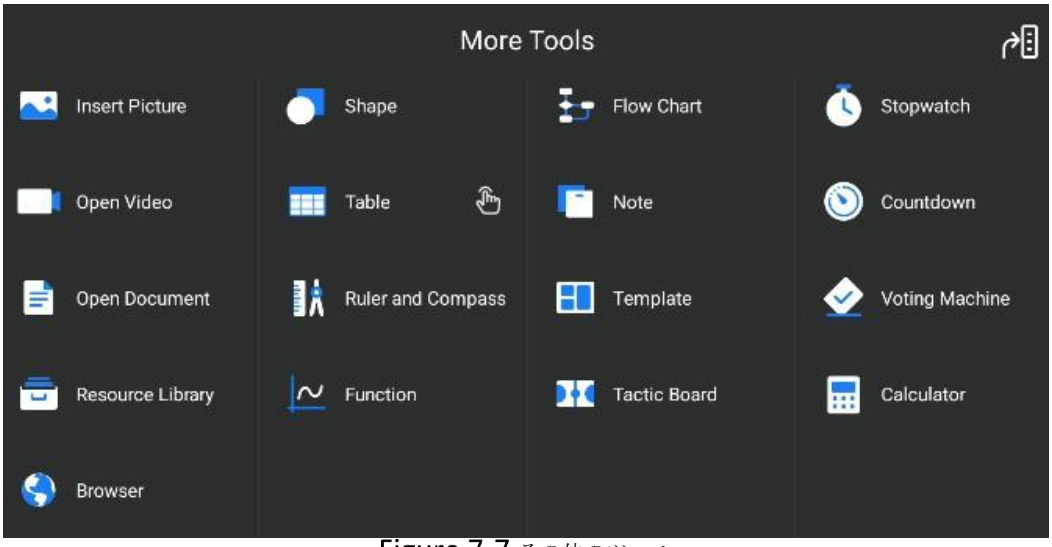


Figure 7-7 その他のツール

Table 7-4 ツール説明

アイコン	名前	説明
	図形	2D および 3D 図形を挿入します。
	定規 とコンパス	定規、分度器、三角定規、コンパスを使用します。ドラッグしてサイズと角度を調整します。
	表	• 表を挿入します。 • 表を長押しして行や列を追加/削除します； • 表をドラッグして移動またはサイズ変更； • 表をタップすると、表内の文字の色を変更できます。 • をクリックし、**形状認識を**有効にしてください。水平線と垂直線を描画することでテーブル認識をトリガーできます。
	関数	• 線形関数、二次関数、三角関数を挿入します。 • 式内で係数、定数項、正負記号、正弦関数、余弦関数、正接関数を編集できます。 • **OK**をタップすると関数グラフが挿入されます。グラフの移動、拡大縮小

		、グラフの編集や削除が可能です。 をタップするとグラフが元の位置にリセットされます。
	フローチャート	• ホワイトボード上でフローチャートを描くために、様々な図形や線を選択できます。 • をクリックすると図形バーを固定できます。
	戦術ボード	タップしてバスケットボールまたはフットボールの戦術ボードを作成。
	メモ	メモを挿入します。メモの移動、サイズ変更、コピー、色の変更をサポートします。
	テンプレート	• P.D.C.A、S.M.A.R.T、S.W.O.Tテンプレートを挿入します。 • テンプレートに直接書き込み、メモを挿入、エクスポート（SVG形式）、またはテンプレートの削除が可能です。
	ストップウォッチ	ストップウォッチを開く。
	カウントダウン	カウントダウンを開く。
	投票機	投票機を開く。
	電卓	電卓を開く。
	画像を挿入	画像を挿入した後、画像をロック、サイズ変更、移動、回転、削除したり、その領域に書かれた内容の色を変更したりすることができます。
	ビデオを開く	動画ファイルを再生します。
	ドキュメントを開く	PPT、PPTX、DOC、DOCX、PDF形式の文書を開いて表示します。
	リソースライブラリ	タップして画像や動画を検索し、挿入します。
	ブラウザ	ホワイトボードの横にあるブラウザを呼び出します。

Note

- をクリックするとサイドバーが表示されます。

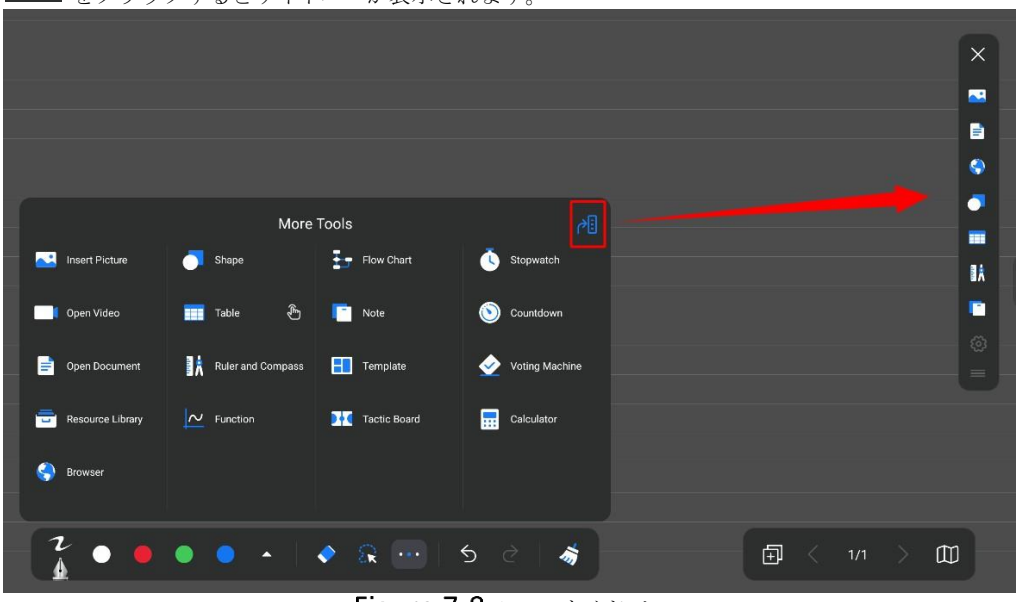


Figure 7-8 ツールサイドバー

- をタップするか、任意のアイコンを長押しして、サイドバーに表示される機能を調整します。**復元**をタップすると、デフォルト設定に戻ります。

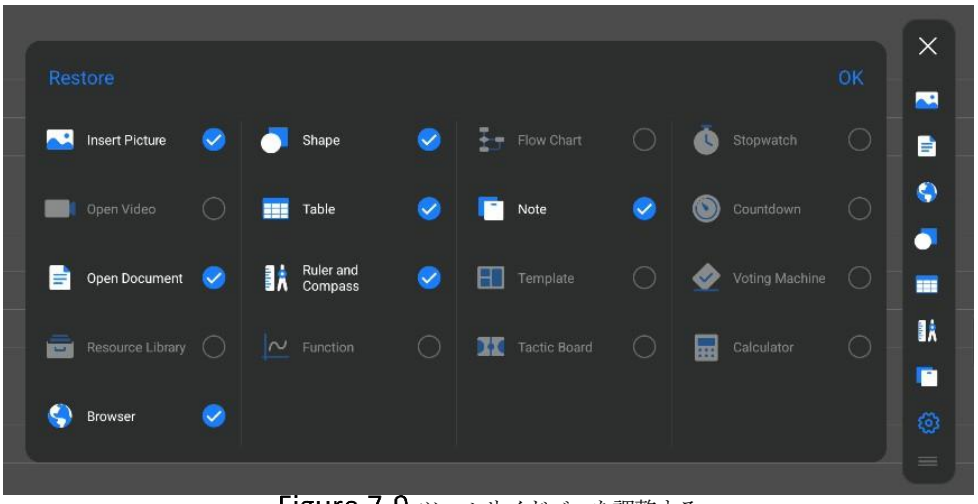


Figure 7-9 ツールサイドバーを調整する

- 図形や表の任意の角に線を描くと、拡大できます。

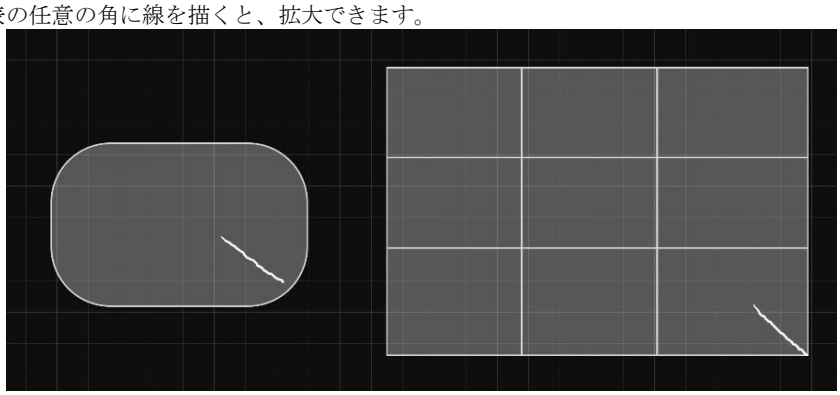


Figure 7-10 図形と表の拡大

- ライブラリと**ブラウザは**、ホワイトボードアプリケーションが全画面表示の場合にのみサポートされます。
- 機能は状況によって異なる場合があります。実際のページを参照してください。

戦術ボード

1) タップ バスケットボールまたはサッカーの戦術ボードを作成します。

Note

バスケットボールとサッカーの戦術ボードの機能は共通しています。ここでは例としてバスケットボール戦術ボードを紹介します。

2) プレイヤーの位置を変更するには、 を 移動させてください。

3) プレイヤーに線を引くには、右下の を有効にします。線種が表示されるので選択してください。

Figure 7-11 線種を選択

4) をタップして選手の人数を選択。 をタップして戦術を選択。

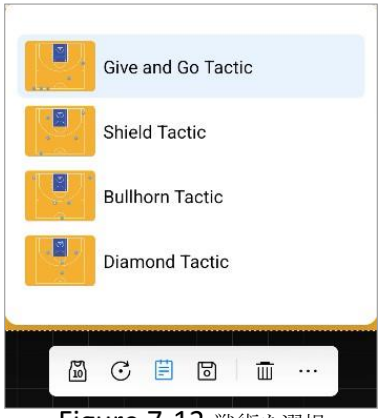


Figure 7-12 戦術を選択

Note

プレイヤーの位置を変更した場合、 をタップして位置をリセットします。

5) ボード上に独自の戦術を描き、戦術名を入力して保存するには「 」 を タップします。保存した戦術は「 」で確認できます。

6) 左下の をタップすると機能ガイドが表示されます。

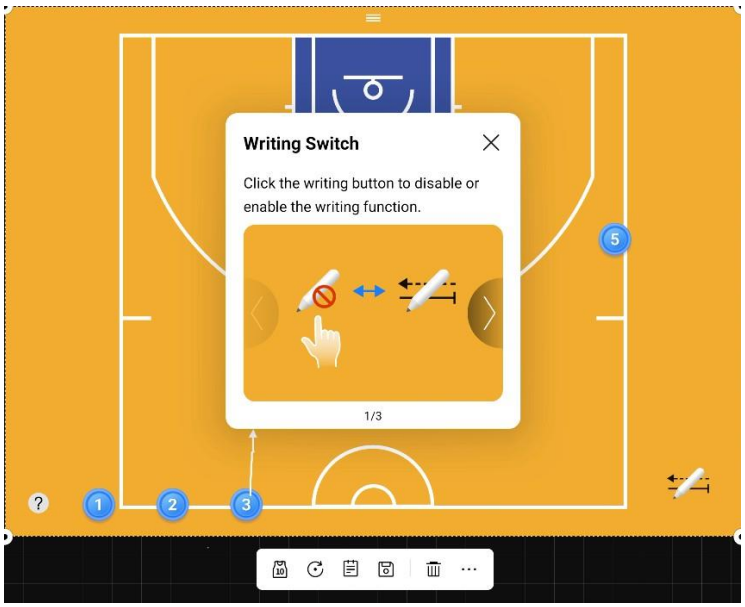


Figure 7-13 機能ガイド

7) を タップして、ホワイトボード上のレイヤーの位置を変更します。

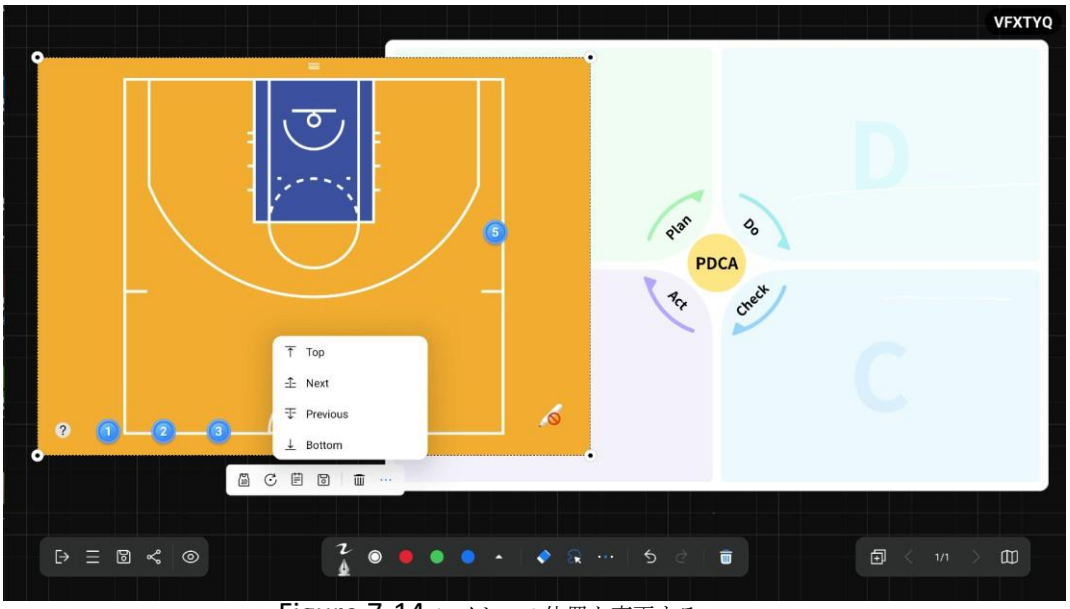


Figure 7-14 レイヤーの位置を変更する

ドキュメントを開く

PDF 形式のホワイトボード文書を挿入して編集することができます。

手順

Step 1 現在のホワイトボードページをPDF形式で保存すると、ファイルは自動的にファイルブラウザに保存されます。

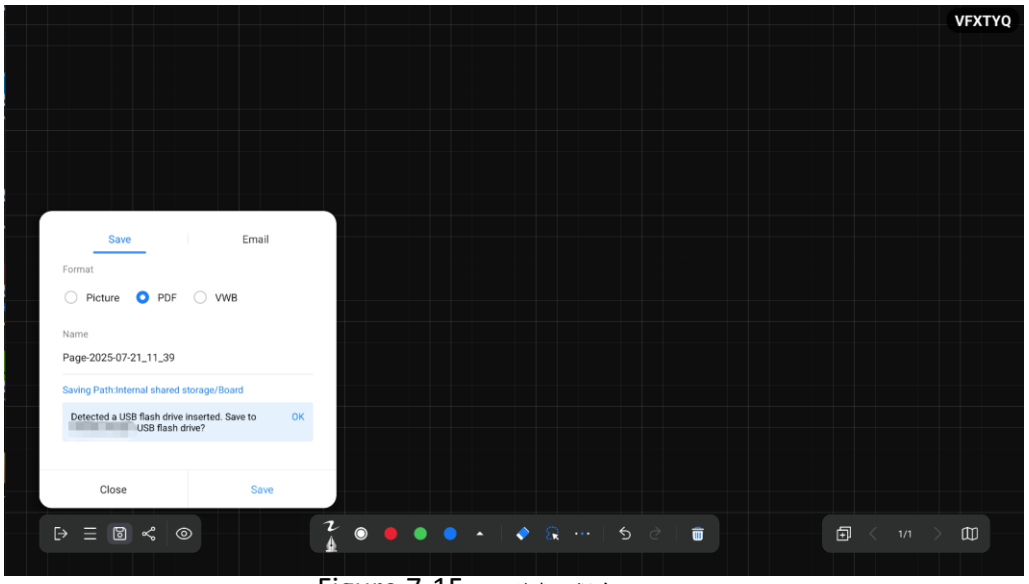
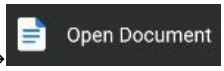


Figure 7-15 PDF形式で保存

Step 2 → 

を タップし、**File Library** を選択します。**Board を**タップすると、保存されたホワイトボード文書が見つかります。

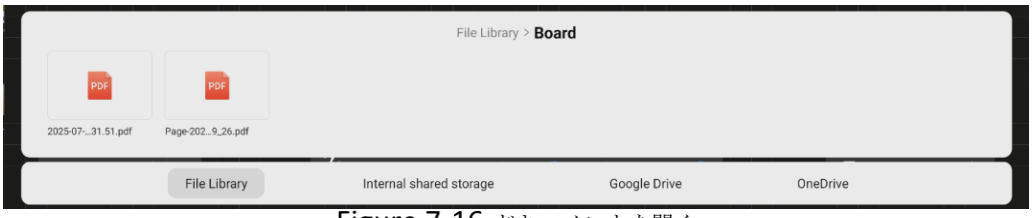


Figure 7-16 ドキュメントを開く

Step 3 挿入したいドキュメントをタップすると、保存されたホワイトボードページ上で編集できます。

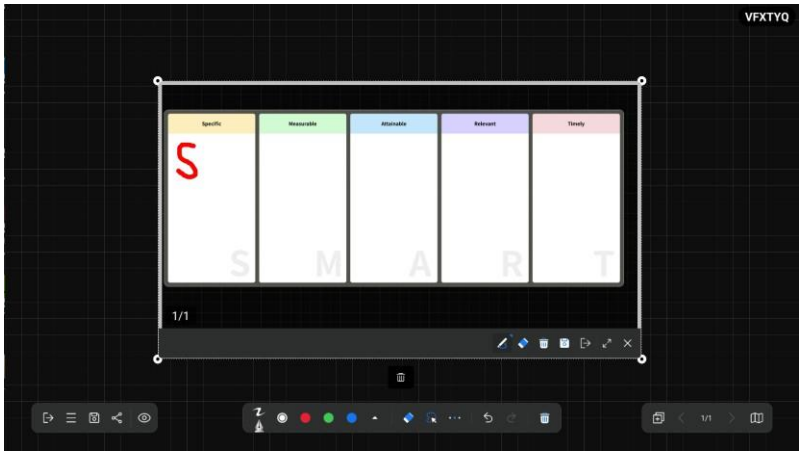


Figure 7-17 ドキュメント上で編集

Table 7-5 挿入済みドキュメントの機能

アイコン	説明
	タップして編集オプションを表示し、文書に書き込みます。
	内容を消去します。
	内容を削除します。
	新しい文書として保存します。
	編集を終了します。
	文書を展開します。
	文書を閉じる。
	文書を削除します。
1/1	左側のサムネイルを探します。サムネイルまたはページ番号を表示する選択が可能です。

7.3.3 Manage Whiteboard

新しいホワイトボードを作成したり、ホワイトボードを切り替えたり、ホワイトボードを削除したりできます。

Table 7-6 機能の説明

機能	説明
ホワイトボードを追加	右下の「 」 をタップしてホワイトボードページを追加します。
ホワイトボードを切り替える	/ をタップしてホワイトボードページを切り替えます。
ホワイトボードのドラッグ	1 枚のホワイトボードは無限に大きく、5 本の指でホワイトボードページを上下左右にドラッグして、書き込みスペースを拡張することができます。
ホワイトボードの表示	ページ番号エリアの1/8 をタップすると、ホワイトボードページのサムネイルが表示されます。サムネイルを上下にスワイプし、ページをタップすると表示中のページにジャンプします。
ホワイトボード削除	ページ番号エリアの「1/8 」 をタップし、ページ右下の「 」 をタップすると、そのページを削除できます。
グローバルナビゲーション	をタップしてグローバルナビゲーションを開きます。ポップアップウィンドウ内の青いボックスをドラッグすると、ホワイトボードの他の領域に移動できます。

Note

ホワイトボードを閉じると、すべての情報がリセットされます。

7.3.4 Save Whiteboard

ホワイトボードの内容が完成したら、ページを端末にローカル保存して参照したり、他の人と共有したりできます。

Step 1 ホワイトボード左下の「 」 をタップしてください。

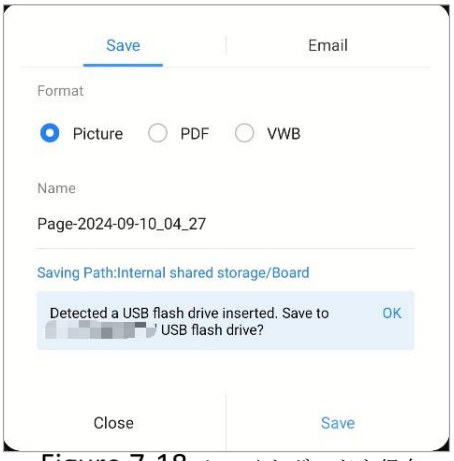


Figure 7-18 ホワイトボードを保存

Step 2 保存形式を選択してください。

Note

ボードをPNG形式の画像、PDF形式の文書、または編集可能なVWB形式のファイルとして保存できます。

Step 3 （任意）ボードの名前を編集します。

Step 4 「**保存**」をタップします。

7.3.5 Share Whiteboard

ユーザーは、電子メールやQRコードを介してホワイトボードを他の人と共有できます。

メールで共有

ホワイトボードの左下にある「 」 をタップし、「**メール**」を選択してください。

Note

開始前にメールサーバーの設定が完了していることを確認してください。

QRコードで共有

左下の「 」 をタップすると、インターネットにアクセスできるモバイルデバイス、またはインタラクティブフラットパネルと同じ LAN 内のモバイルデバイスがコードをスキャンしてホワイトボードのコンテンツをダウンロードできます。

Figure 7-19 QRコードで共有

7.3.6 More Functions

ホワイトボードの左下にある「 」 をタップすると、画面分割書き込みや 2 色書き込みなどの機能を利用できます。

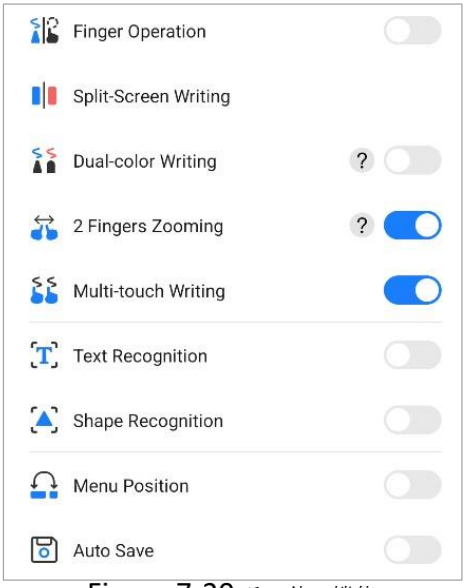


Figure 7-20 その他の機能

指操作

スタイラスで書く際は、指で書き、消し、丸で囲みます。

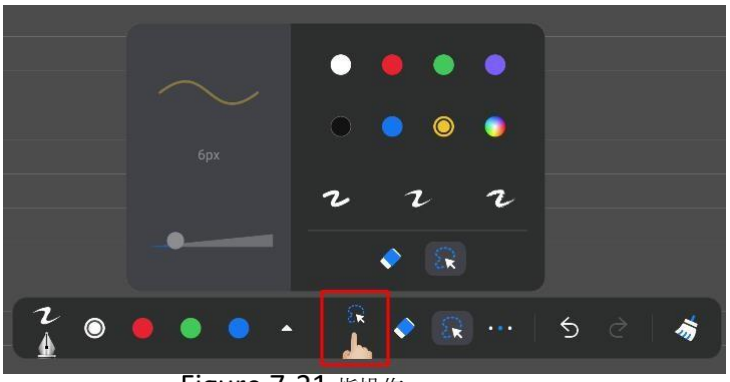


Figure 7-21 指操作

分割画面での書き込み

分割画面でのホワイトボード同時書き込みをサポート。

- 00 または 000 をタップすると、2 画面または 3 画面に切り替わります。
- ☒ をタップすると分割画面書き込みモードを終了します。

Note

分割画面の数を変更したり、分割画面での書き込みを終了したりすると、現在の内容は保存されません。

デュアルカラー書き込み

有効化後、筆記ペンの先端と尾部で異なる色を選択できます。

Note

- ストロークサポートを長押しすると、ペンのしきい値を調整できます。
- 機能ガイドを見るには、 ? をクリックしてください。

2本指ズーム

有効化後、指を使ってページを拡大/縮小できます。 ? をクリックして機能ガイドをご覧ください。

マルチタッチ書き込み

有効にすると、ホワイトボードはマルチフィンガータッチに対応し、複数の指で同時にホワイトボードを編集できるようになります。

文字認識

有効化後、ホワイトボードは手書き文字を認識し、標準的なテキストに修正します。

形状認識

有効化後、ホワイトボードは描画された図形を認識し、標準的な図形に補正します。

Note

- 認識可能な形状には、円、三角形、長方形、直線が含まれます。
- テキスト認識と形状認識は同時に有効にすることはできません。

メニュー位置

有効にすると、ホワイトボードの左側のメニューと右側のページ番号が入れ替わり、機能アイコンやメニューに簡単にアクセスできるようになります。

自動保存

ホワイトボードファイルを 5 分ごとに自動的に保存します。

新しいホワイトボードファイルを作成した場合、自動保存は行われません。ホワイトボードを終了する際に保存を促すメッセージが表示されます。

背景

ホワイトボードの背景と陰影を設定し、必要に応じてホワイトボードの背景スタイルをカスタマイズできます。

開く

VWB形式で保存されたホワイトボードファイルを開き、再度編集できます。

About

現在のバージョンとオープンソース契約を表示します。

ツールバーを非表示

左下の「 」をタップしてツールバーを非表示にします。「 」をタップすると展開されます。

7.4 WonderCastServer

PCやスマートフォンの画面をインタラクティブフラットパネルにミラーリングしたり、PCやスマートフォンからフラットパネルを操作したりできます。WonderCastServerの詳細については、以下のQRコードをスキャンしてください。

Figure 7-22 WonderCastServer

7.5 WonderSeminar

WonderSeminarは最大8台のデバイスを同時にグループ接続し、シームレスなコラボレーションを実現します。この革新的なソリューションにより、デバイス間のコンテンツ配信、グループ比較の促進、アクセス権限管理などが可能となり、様々なプロフェッショナルなシナリオに最適です。WonderSeminarはマルチスクリーンでの教室ディスカッションを完璧にサポートし、複数の会議スペースでの同期プレゼンテーションを実現することで会議室の接続性を強化します。
グループ比較、権限制御などを実現し、様々なプロフェッショナルなシナリオに最適です。WonderSeminarはマルチスクリーンでの教室ディスカッションを完璧にサポートし、複数の会議スペースで同期したプレゼンテーションを行うための会議室接続性を強化します。

手順

Step 1 **WonderSeminar**に移動し、まずデバイス用のグループ役割を選択してください。その後、**OK**をタップします。

Note

以下の例は管理者デバイスの操作を示します。

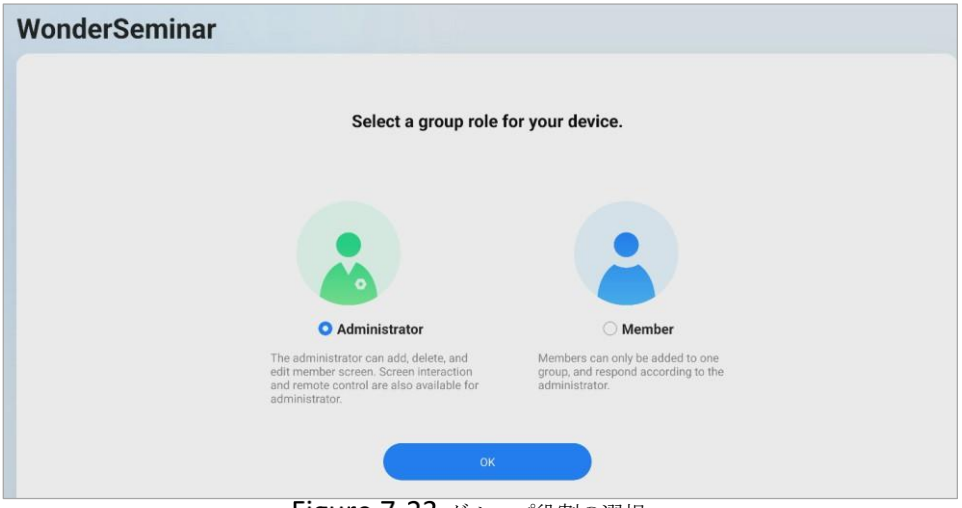


Figure 7-23 グループ役割の選択

Step 2 「 + Add Device 」 をタップしてデバイスを追加し、検出されたデバイスは右側に表示されます。一時的に検出できないデバイスがある場合は、それらのデバイスのパスコードを入力して追加してください。

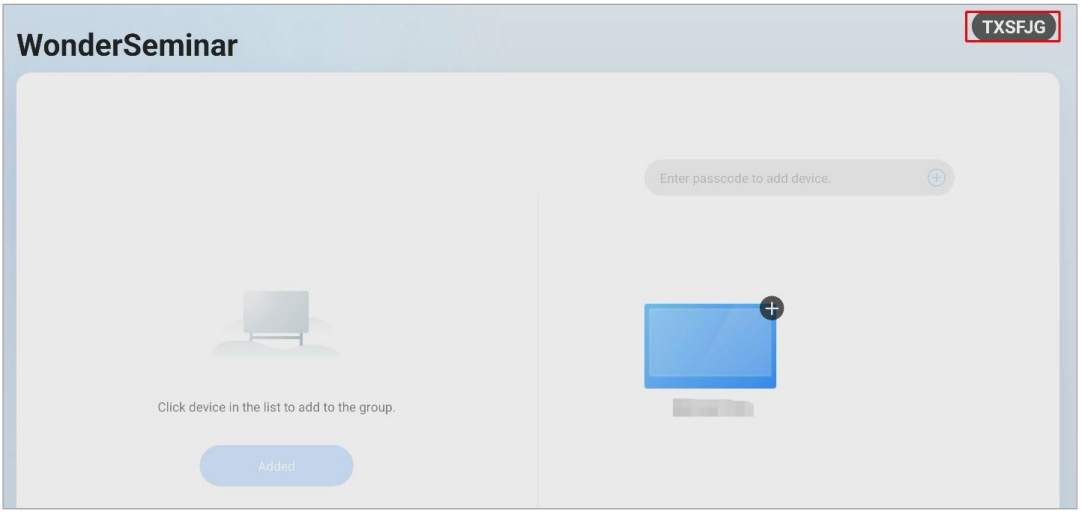


Figure 7-24 デバイスの追加

Step 3 「 + 」 をタップしてデバイスをグループに追加します。「 Added 」をタップすると、グループに追加された全デバイスを確認できます。

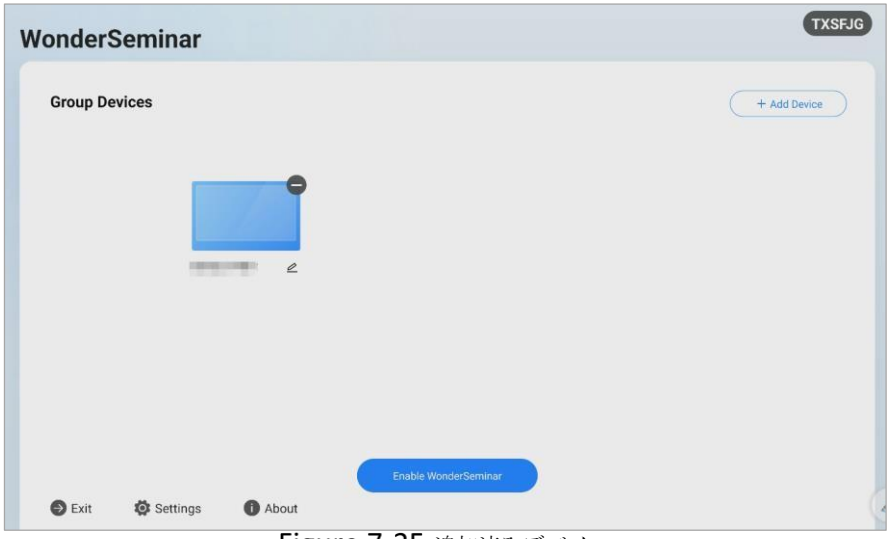


Figure 7-25 追加済みデバイス

Step 4 Enable WonderSeminar をタップすると、その他の機能が表示されます。

7.5.1 Broadcast and Call Screens

ブロードキャスト

→ Broadcast to All Devices を タップすると、管理者デバイスが全メンバーデバイスに配信されていることが確認できます。

Note

例えば教室では、これで全ての生徒端末が教師端末の操作を表示できます。

通話画面

タップ Edit Broadcast Image をタップすると、最大4台のデバイスをドラッグでき、その映像を管理者デバイスに表示できます。

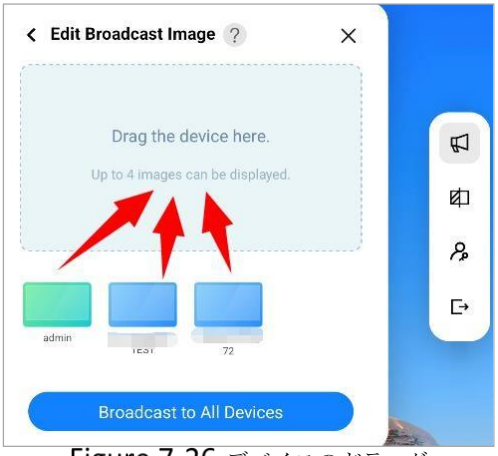


Figure 7-26 デバイスのドラッグ

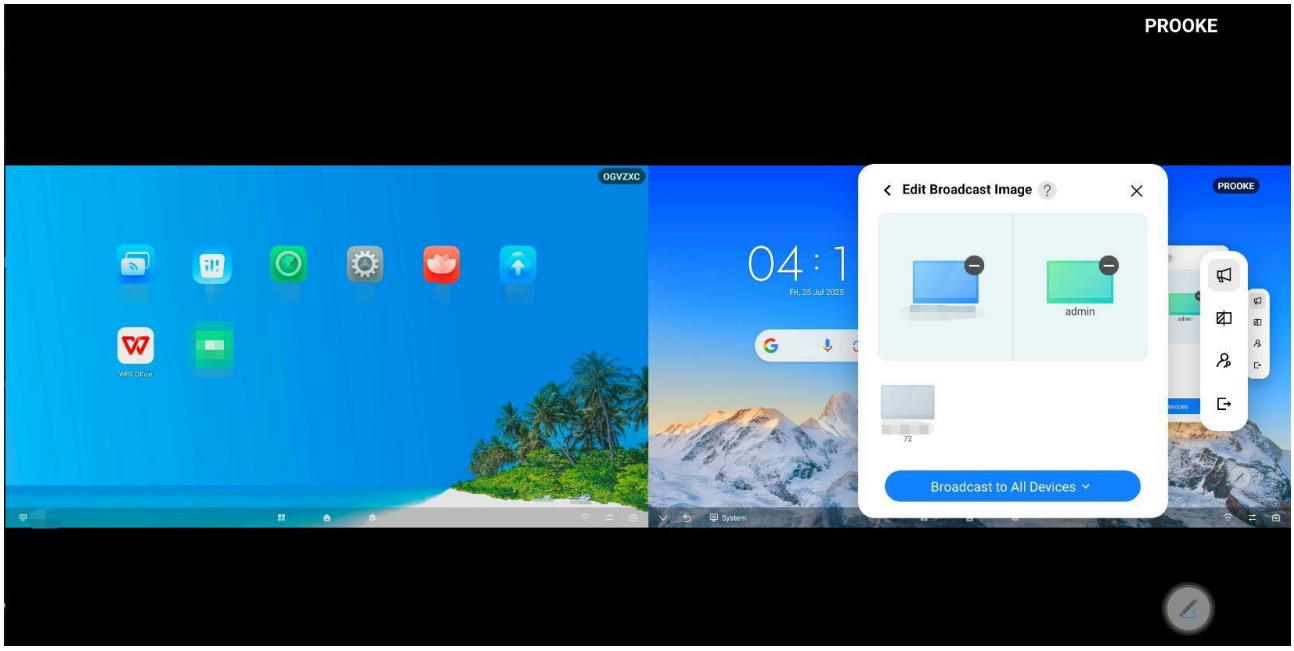


Figure 7-27 管理者端末のコールスクリーン

画面呼び出し後も、管理者デバイスから他のメンバーデバイスへ画像をブロードキャストできます:

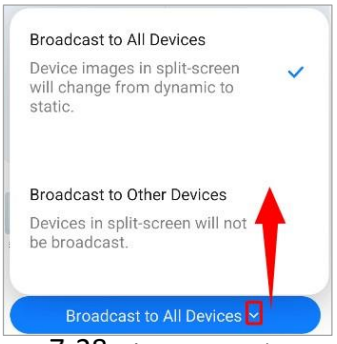


Figure 7-28 デバイスへのブロードキャスト

- 全デバイスへの配信: すべてのメンバーデバイスが管理者デバイスの映像を視聴できます。
- 他のデバイスへの配信：追加の参加デバイスは、管理者デバイスで呼び出されたデバイスを除く、管理者デバイスからの画像を表示します。

7.5.2 Group Comparing

グループ比較モードでは、最大4枚の画像を別の画面に表示できます。

手順

Step 1 を タップしてグループ比較ページに入ります。

Step 2 左のリストからデバイスを選択し、最大4つのデバイスをドラッグして表示します。

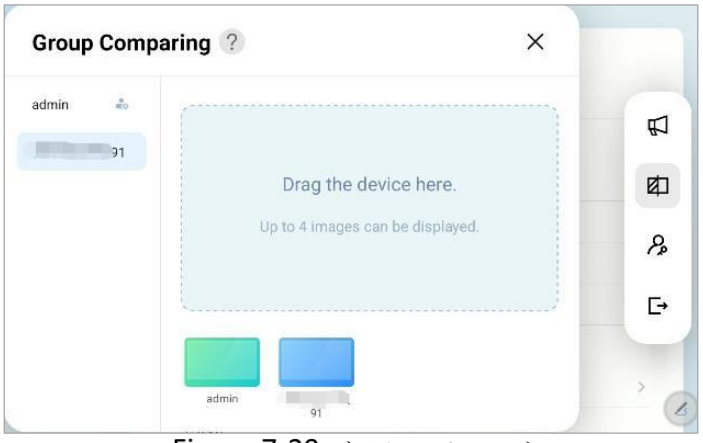


Figure 7-29 デバイスのドラッグ

Step 3 （任意）別のデバイスを選択し、最大4つのデバイスをドラッグして表示します。

左リストのどのデバイスでも、任意のデバイスの画像を表示できます。

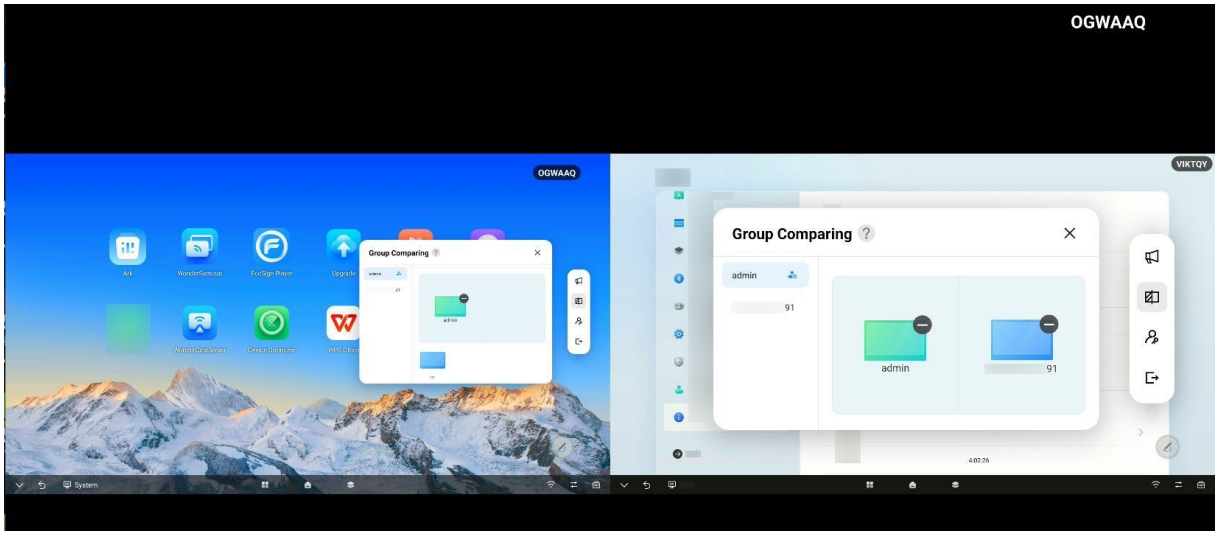


Figure 7-30 任意のデバイスを選択して任意のデバイスの画像を表示

7.5.3 Permission Control

「 」 をタップして権限管理ページに入ります。

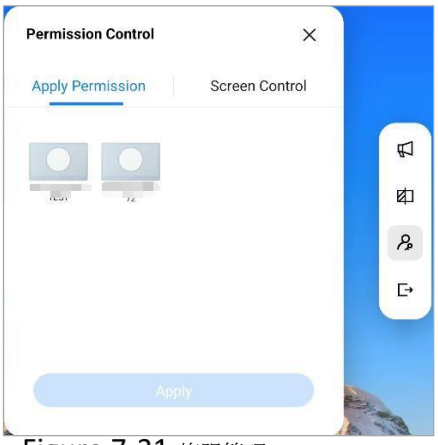


Figure 7-31 権限管理

- 権限を適用：任意のメンバーデバイスをタップし、次に**「適用」を**タップします。メンバーデバイスには一時的な管理者権限が付与され、管理者デバイスと同等の権限が与えられます。
- 画面制御：**画面制御**をタップすると、管理者はメンバーデバイスの画面をすばやくオン/オフできます。

7.5.4 Other Operations

終了

タップ または Exit をタップすると、WonderSeminarを終了できます。

設定

メイン画面左下の**「設定」**をタップすると、デバイスのグループ役割を変更できます。

About

メイン画面の左下にある**「About」**をタップすると、ソフトウェアのバージョンやオープンソースソフトウェアのライセンスなどを確認できます。

7.6 WonderOS AI

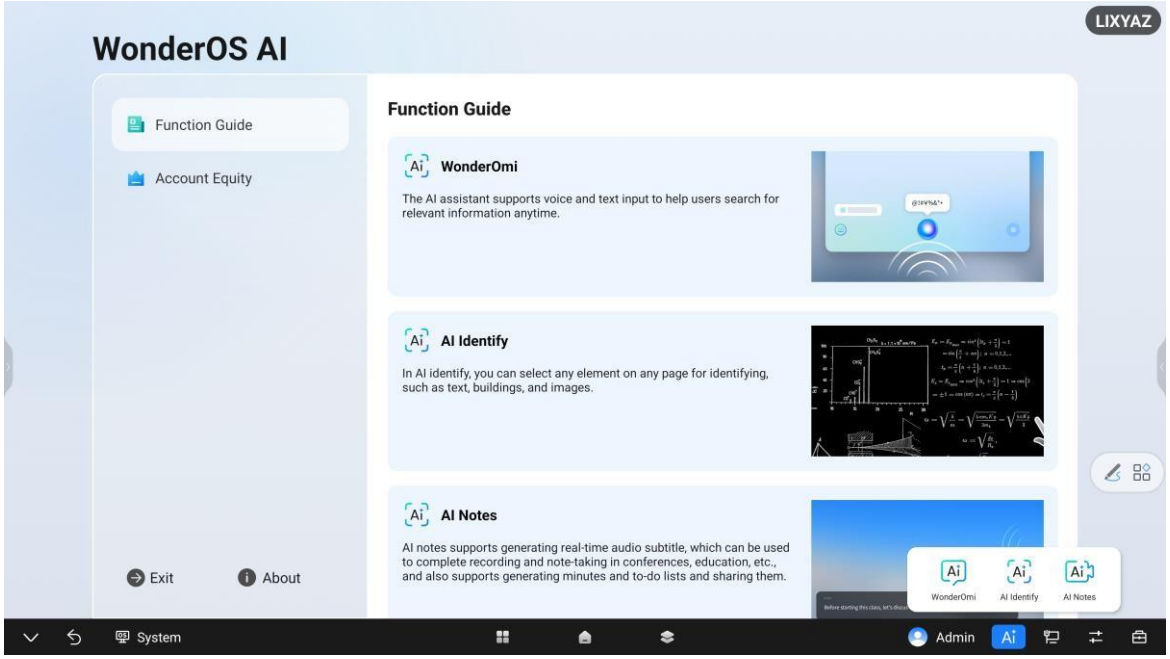


Figure 7-32 WonderOS AI

7.6.1 WonderOmi

「 → WonderOmi 」をタップして、 OmiとAIチャットを楽しめます。WonderOmiは音声とテキスト入力に対応しています。

Note

音声入力はAndroidシステムでのみサポートされています。

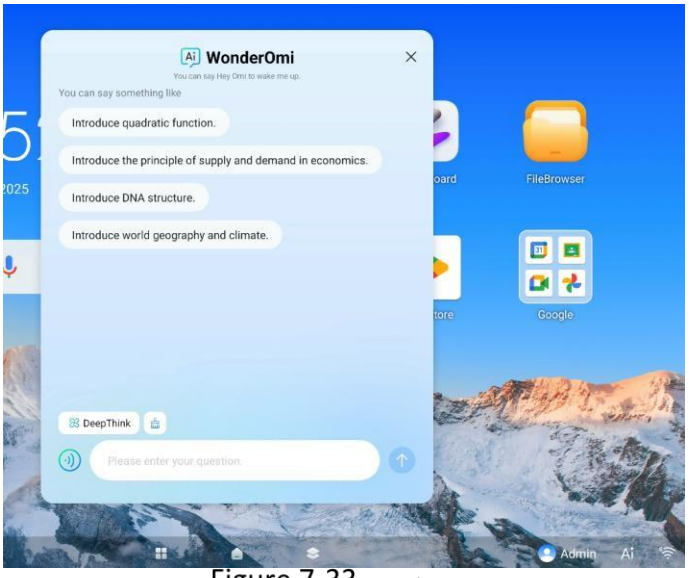


Figure 7-33 WonderOmi

- DeepThink: AIチャット中にDeepThinkを有効化。
- : チャット履歴を消去。

7.6.2 AI Identify

手順

Step 1 Ai → AI Identify をタップ、任意の領域を円形に囲むとAI識別を実行します。

Step 2 （オプション）長押しで回答を選択し、**AI検索**、**ディープサーチ**、**コピー**、および**ホワイトボード挿入を実行します**。

Table 7-7 操作説明

操作	説明
	識別情報を再度生成します。
	深く考える。
	他の言語は英語に翻訳できます。
	回答を読み取ります。
	回答をコピーする。
AI百科事典	選択したコンテンツの百科事典情報を提供する。
AIスマート質問	選択した内容に基づいてスマートな質問を生成します。 • **AI Expand を**タップすると、選択したキーワードに基づいて質問を展開します。 • **難易度レベル**と**質問数を**設定します。 • 学習用の質問を生成する。
AI例文	選択した内容に基づいた例文をいくつか提示する。

7.6.3 AI Notes

話者の発話を録音し、内容をリアルタイムで表示し、内容をリアルタイムで翻訳する。

Figure 7-34 AI録音

をタップしてAI録音パラメータを設定します。

- 音源
  - マイク：インタラクティブフラットパネルのマイクで収集された音声。
  - システム：インタラクティブフラットパネルのスピーカーから再生される音声。
- 入力言語: 録音中の話者の声の言語。
- 話者識別：録音時に異なる話者の発話を識別します。
- リアルタイム翻訳：タップして対応言語を確認。
- フォントサイズ：字幕のフォントサイズを調整します。
- 背景: 字幕エリアの背景色。

Table 7-8 アイコンの説明

操作	アイコン	説明
全画面		AI レコード画像を全画面で表示します。
		フルスクリーンを終了します。
翻訳		リアルタイム翻訳を表示します。
		翻訳を非表示にする。
最小化		録画ツールバーを最小化します。
	17:06	ツールバーを表示する。
終了		録音を終了します。必要に応じて内容を保存または共有してください。

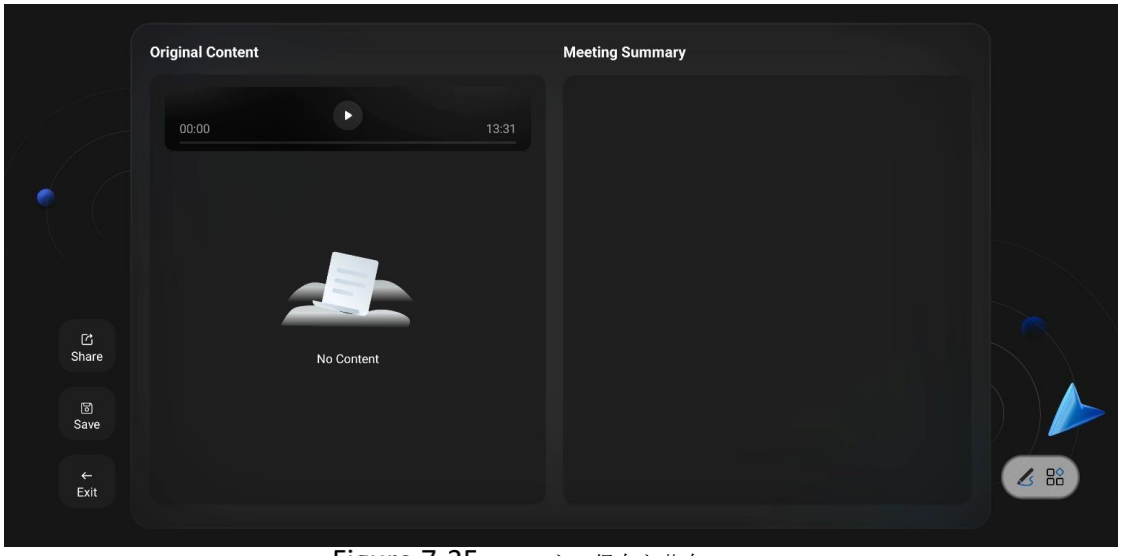


Figure 7-35 AIノートの保存と共有

7.6.4 Account AI Benefits

アカウント残高をタップすると、AIサービスの残り時間と有効期限を確認できます。

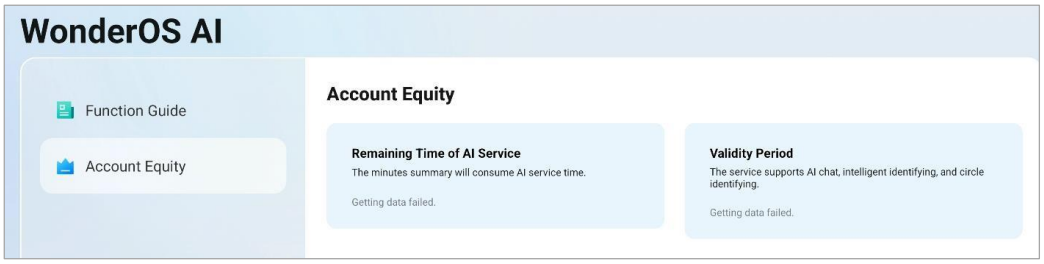


Figure 7-36 AI特典

7.6.5 About

「**About**」をタップすると、バージョンや更新設定などを確認
できます。

7.7 システムプリインストールアプリケーション

以下の表は、システムにプリインストールされているアプリケーションの概要を示しています。詳細については、各アプリケーションのヘルプドキュメントを参照してください。

Note

システムにプリインストールされているアプリケーションは、デバイスタイプによって異なります。

Table 7-9 システムプリインストールアプリケーションの紹介

アプリケーション	概要
ホワイトボード	描画や書き込みに使用します。内容の保存、移動、拡大、縮小、削除、ダウンロードに使用できます。
ファイルブラウザ	ファイルを管理します。
ブラウザ	デバイスがネットワークに接続されると、ブラウザを通じてインターネット情報を閲覧できます。
ギャラリー	SDカードやUSBディスク内の画像を表示するために使用します。
アップグレード	リモートアップグレード、ローカルアップグレード、およびローカルコンポーネントのアップグレードを提供します。
WonderCastServer	フラットパネル、携帯電話、PC を接続して画面ミラーリングを行うアプリケーションです。
WonderSeminar	グループデバイスの管理に使用されます。
WonderOS AI	インタラクティブフラットパネルで完璧なAI機能を実現します。

カメラ	カメラによる撮影に使用されます。
DMS	集中管理プラットフォームとの連携に使用され、プラットフォームを介してデバイスをリモート管理できます（ファイル送信やリモートアップグレードなど）。
FocSign Player	デジタルサイネージにプログラムやスケジュールを配信するために使用されます。
視力検査	簡単な視力検査アプリ。インタラクティブフラットパネルで直接視力検査を行うことができます。
Gemini	Google DeepMindが開発した高性能AIモデルで、マルチモーダル推論と高度な自然言語理解を目的としています。
Google Playストア	デバイス向けのマーケットプレイスであり、アプリ、ゲーム、書籍、映画、その他のエンターテインメントコンテンツを検索・ダウンロードできます。
Google Maps	世界中の地理的地域や場所に関する詳細な情報を提供します。
Googleフォト	写真と動画のライブラリ全体を無料でバックアップするサービスです。
Google Drive	ファイルをオンラインでアップロード、同期、共有できるクラウドストレージサービスです。
Google TV	ストリーミングアプリ、ライブテレビ、パーソナライズされたおすすめコンテンツを、1つの統一されたユーザーインターフェースで統合したプラットフォームです。
Google Chrome	Google が開発した無料のウェブブラウザで、インターネット上のウェブページにアクセスするために使用されます。
Gmail	Googleが提供する無料サービスで、ユーザーがインターネット経由で電子メールを送受信できるようにします。
Google	Googleが提供する検索エンジンです。
Google Meet	ビデオ会議サービスです。
Youtube	動画共有のためのソーシャルメディアプラットフォームおよびウェブサイトです。
YouTube Music	Googleが提供する音楽ストリーミングサービスです。
Googleカレンダー	Googleが開発した時間管理・スケジュール管理ツールです。

第8章 付録A よくある質問

質問	原因と解決策
なぜ画面に結露が頻繁に発生するのですか？	外側の画面には保護のため強化ガラスが取り付けられています。画面と強化ガラスの間には空気対流のための隙間があります。主な原因は、画面と外部の間に温度差があることです。高温の空気が低温のガラス表面で結露し、水滴が発生します。水滴はデバイス起動後に蒸発し、使用には影響しません。
接続後、ノートパソコンから音が出ないのはなぜですか？	オーディオケーブルのみ接続した場合、音声出力と映像出力の両方が利用できません。 • HDMIケーブルを接続してください。 • Windowsでデバイスをオーディオ出力デバイスとして選択してください。
使用後しばらくすると画面が熱くなるのはなぜですか？	画面の温度上昇は放熱によるもので、完全に正常な現象です。当社の放熱設計は業界をリードするもので、業界標準の策定者であり、国家健康基準に準拠しています。
長時間の使用は目に悪影響を与えますか？	人間の目が認識できるフリッカーの周波数は50Hzです。周波数が50Hz未満の場合、フリッカーが認識され、眼筋の疲労を引き起こします。当社製品は60Hzの液晶画面を採用しているため、人間の目は画面のフリッカーを認識しません。同種の他社製品と比較して、眼精疲労を大幅に軽減できます。
画面に映像が表示されず、機器から音も出ないのはなぜですか？	• 電源ケーブルが接続されているか確認してください。 • コンセントが正常に作動しているか確認してください。 • 電源スイッチが入っているか確認してください。
デバイスのHDMIチャンネルに入力信号がないのはなぜですか？	• 入力ソースが正常に動作しているか確認してください。 • HDMIインターフェースまたはケーブルを変更してください。 • PCにアクセスする場合は、PCでHDMI出力を設定してください。
有線ネットワークが不安定なのはなぜですか？	自動ネットワーク検出オプションを無効にしてみてください。